滋賀県における医療人の育成に関するＦＤ・ＳＤ研修会を実施しました

2024年11月25日

１１月１２日（火）１６時３０分から、看護学科第一講義室にて「地域包括ケア時代における医師・看護師の役割」をテーマに、滋賀県健康医療福祉部　次長　切手 俊弘　氏にご講演いただきました。

今年度より滋賀県内の看護系大学に地域枠が設置されたことに伴い滋賀県における医療人の育成について、滋賀県内の地域格差、地域医療構想や地域包括ケアシステムの在り方、医師・看護師の確保対策など、現在の滋賀県の状況や今後の課題も含め、幅広いお話をしていただきました。その後、質疑応答を含めた意見交換が行われました。

約５０名が参加（Zoom含む）し、学外からも滋賀県内看護師養成学校の関係者や里親の方々も参加いただきました。

ご多忙の中、多数ご参加いただきまして、ありがとうございました。

（このＦＤ・ＳＤ研修会は、里親学生支援室とＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構との共催で行いました。）

〔講演の様子〕

〔質疑応答の様子〕

〔永田先生の閉会の挨拶〕

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2024 第五弾！を実施しました。

2024年11月8日

2024 年 10 月 6 日（日）長浜市で『「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2024　第五弾！』を実施しました。

今回は大学から飛び出して、長浜駅から徒歩 10 分圏の城下町エリアを舞台に、浅井東診療所 松井 善典 先生に『「地域ケア・まち歩き」出会いと歩みで”みるみる”めぐる長浜城下町ツアー』と題し、コーディネートいただきました。

当日は学生 9 名、研修医 1 名、教員 1 名の合計 11 名が参加しました。

今回の講師には松井先生をはじめ、まちづくり専門家、長浜市保健師 OB、訪問看護師の方も加わっていただき、それぞれの専門の立場から同じ地域住民の方の医療提供や体験談・気づきなどを、散策しながらお話しいただき、貴重な機会となりました。

参加学生からは、「まちづくりや地域医療を考える際に、時間軸を取り入れることができるようになった」、「地域住民の方全員を対象とした医療の提供についてお話を伺い、地域の特徴や課題を把握することの重要性を改めて認識しました」などの感想がありました。

（この企画は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人　滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2024年11月5日

１０月２６日（土）～２７日（日）に滋賀医科大学の学園祭（第５０回若鮎祭）が開催され、里親学生支援室では福利棟１階（生協食堂）にＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構との合同ブースを設けました。ブースでは、本事業に登録していた先輩学生たちから後輩に向けたメッセージや、宿泊研修の活動内容などの展示や映像を流し、里親学生支援事業の取り組みを広く知っていただけるようＰＲに努めました。

今年度の展示会場は、開学５０周年記念事業の一環で改修工事が行われ、新しく生まれ変わった福利棟での展示となり、隣りでは、茶道部のブースや管弦楽団のステージがあり、たくさんの方にご来場いただきました。

雨が心配されましたが、両日とも気持ちの良い秋晴れの中開催することができ、ブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2024 第四弾！を実施しました。

2024年10月25日

2024 年 9 月 20 日（金）17 時から本学臨床講義室 1 で『「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2024　第四弾！』を実施しました。

今回は、永源寺診療所長　花戸 貴司 先生をお招きし、「家庭医療×まちづくり　医療と地域の新しいつながりを考える～全ての医療従事者、学生のために！人と地域の絆を学ぶ～」をテーマにご講演いただきました。

当日は学生 16 人、教職員 2 名の合計 18 人の方が参加しました。

最初に、『「地域で支える」を考える』をテーマに参加学生の聞きたい内容に沿ってお話しいただきました。東近江市で実践されている「二人主治医制」などの仕組みや、クイズ形式で回答できるように工夫していただきながら、分かり易くお話しいただきました。

最後に、質疑応答を行っていただき、盛況のうちに終了いたしました。

（この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人　滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2024 第三弾！を実施しました。

2024年10月25日

2024 年 9 月 6 日（金）16 時から本学看護第 3 講義室で『「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2024　第三弾！』を実施しました。

今回は、弓削メディカルクリニックの中村琢弥先生をお招きし、「地域医療×公衆衛生 家庭医から学ぶ！地域住民集団の健康を守る方法」をテーマにご講演いただきました。

当日は学生 15 人、教職員 2 名の合計 17 人の方が参加しました。

最初に、事例を踏まえて分かり易く家庭医や公衆衛生の在り方などについてお話しいただいた後、実践として、３～４名に分かれて、グループワークを行っていただきました。

『コロナワクチンを多くの方へ接種してもらうためにはどうすればよいか』をテーマに、グループで多くの角度からアイデアを出し合い、グループごとに共有（発表）を行いました。

最後に、質疑応答を行っていただき、盛況のうちに終了いたしました。

（この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人　滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2024 第二弾！を実施しました。

2024年9月26日

2024 年 8 月 29 日（木）17 時から本学臨床講義室 1 で『「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2024　第二弾！』を実施しました。「医療・アート・デザイン・公共―プライマリ・ケア医×医系技官―」と題し、台風 10 号が接近している中での開催となりましたが、学生　25　人、研修医 1 名、教職員 4 名の合計 30 人と多くの方に参加していただきました。

今回は、浅井東診療所の髙石亮太先生、厚生労働省　健康・生活衛生局健康課地域保健室の松下詢先生をお招きしました。

医療とはかけ離れているアートや、行政といったジャンルの違ったものにふれること、視点をかえることの大事さを教えていただきました。「デザインを用いることで生活を豊かにしたり、物事を新たな視点から考えることができることが印象的でした。」「デザインの定義を知れたこと。デザイン思考を実践しようとした時に、デザインの定義を理解していないといけないから。」といった学生の声もあり、盛況のうちに終了いたしました。

（この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法 人滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

「第 21 回卒業後の自分を考える連続自主講座」を実施しました。

2024年8月20日

2024 年 7 月 22 日（月）本学臨床講義室 1 で「第 21 回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

今回は医学・看護学教育センター主催の「学内で地域医療の体験ができる課外授業シリーズ」を連続自主講座とし、合同で実施しました。当日は医学科学生 18 名、教職員 3 名の参加者がありました。

課外授業シリーズ第一弾は、藤田医科大学の山地翔太先生をお迎えし、「地域医療と社会起業 二 足の草鞋を履いてみる」のタイトルで、医師と起業家という今までにない新しい立場からのお話しをしていただきました。

山地先生は弱い立場の人に寄り添うことを信念にされており、その思いが原動力となり、医師でありながら起業家としても活動されています。これまでの挑戦と苦悩を交えたお話しは、学生にとって有意義な時間となりました。

学生からは「医師の働き方は多様であることを学びました」「非常に刺激的でした」などの声がありました。質問にも丁寧にお答えいただき、盛況にて終了いたしました。

（この講座は　医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

里親登録学生と里親学生支援室員との顔合わせ（懇談会）を行いました

2024年6月12日

６月５日（水）の昼休みに、里親登録学生 17 名（新規登録学生 11 名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、ＣＭＣ（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

初めに室員の自己紹介を行い、続いて、新規登録学生の自己紹介を行いました。入学前から本事業を知っている学生も多く、地域医療を学ぶツールとして利用している学生も見受けられ、地域医療への関心の高さをうかがうことができました。また、登録学生の先輩からは、県内・県外出身は関係なく滋賀県の地域医療が学べるので、是非、宿泊研修は参加してみてほしいという話しがありました。

その後、相見室長から里親学生支援事業の概要や、今年度の事業計画について具体的な説明があり、夏期休暇中に実施する高島市・湖西地域方面での宿泊研修について、訪問先の紹介がありました。

最後に、里親の先生には様子をみながら積極的に連絡を取ってもらいたいが、困ったことがあれば遠慮なく事務局等へ相談してほしいと呼びかけがありました。

長浜市・湖北地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2024年4月1日

３月１４日（木）～１５日（金）に、長浜市・湖北地域方面を訪問させていただいた春の宿泊研修には、学生 16 名（滋賀医科大学医学科第 1～6 学年 12 名、看護学科第 1 学年 1 名、自治医科大学医学部第 6 学年 1 名、滋賀県立大学人間看護学科 1 年生 2 名）が参加しました。

【1 日目】

・湖北病院にて研修

滋賀県で一番北に位置する湖北病院を訪問しました。

まず、東野克巳副院長、浦山先生、影山先生のご案内で、滋賀県最北の診療所である「中河内診療所」を訪問しました。そこはほぼ福井県との県境に位置し、冬季は豪雪に見舞われますが、湖北病院の管理により定期的に診療が行われています。

その後、「中之郷診療所」を訪問し、診療所の特徴などお話しいただきました。最後に湖北病院へ戻り、久田先生より湖北病院の特徴や地域包括ケアシステムの必要性、へき地医療の重要性について熱心にご説明いただき、最後に病院見学を行っていただきました。

＜中河内診療所＞

＜中之郷診療所＞

＜湖北病院＞

・長浜赤十字病院にて研修

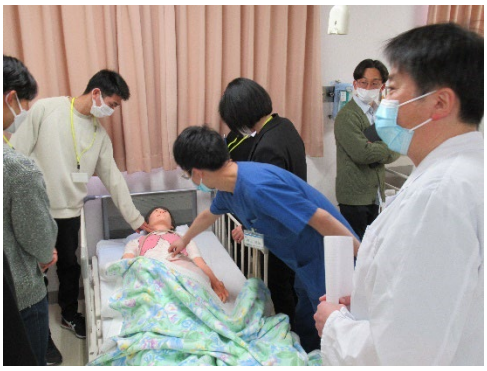
午後からは、長浜赤十字病院に訪問させていただきました。

楠井院長からご挨拶をいただきました。長浜市の医療について説明いただき、優先順位をつけながら医療を行うことの大切さをお話しいただきました。

その後、２班に分かれ、ヘリポートや院内救急部を中心とする施設を見学させていただきました。

続いて、江川副院長から長浜地域における長浜赤十字病院の役割と概要の説明をお話いただきました。

最後に、医学科と看護学科に分かれ、医学科は本学卒業生の西川晃永研修医からご自身の体験談などを交え説明を行っていただき、看護学科では高橋看護副部長、本学卒業生の高橋祐加助産師と意見交換を行い、交流を深めていました。



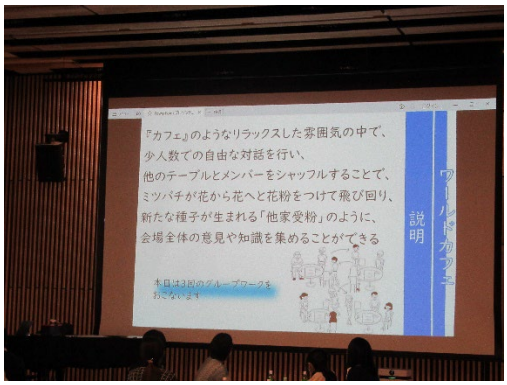
・長浜市ＷＳ

宿泊研修では初めての試みで、長浜市デザイン課によるＷＳを行っていただきました。

はじめに、浅井東診療所の松井先生よりご挨拶をいただきました。続いて、長浜市デザイン課の方より「長浜市のめざすまちづくり」について説明を行っていただきました。

タイトルは「30 年度に長浜に住む若者の笑顔のために大切なことは？」と題し、急速な少子高齢化に伴い、若者の目線から地域を考えることで、活力をまちにもたらし、持続的なまちづくりが進められるのでないか？という視点で WS が進められました。

各グループに分かれ行政の方や教員も交え、意見交換会を行いました。



・交流会

夕方は、グランパレー京岩において交流会を開催しました。

浅見長浜市長より開会のご挨拶をいただき、是非長浜市で医師・看護師として活躍していただきたいとのお話がありました。

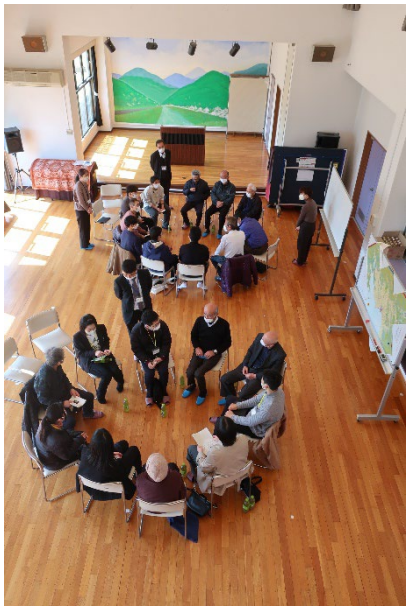
また、訪問先の関係者の方々や行政の方々にご参加いただき学生と交流をはかっていただきました。貴重な意見交換、懇談の場となりました。

【2 日目】

・浅井東診療所にて研修

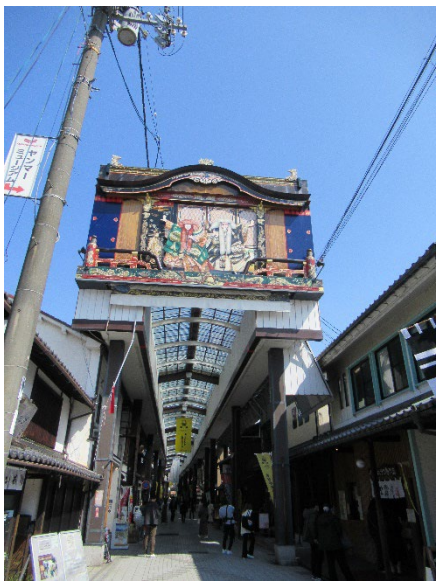
浅井東診療所では、学生たちは、事前に松井所長から提案されたプランの中から希望したコース（地域フィールド＆地域住民の方へのインタビュー、訪問看護ステーションの訪問看護に同行、全人的のあの方に会いたい再会インタビュー、医療者シャドウイング＆インタビュー）に分かれて、フィールドワークをさせていただきました。地域フィールド＆地域住民の方へのインタビューコースでは、浅井東診療所付近を散策し、標高 300mにある「大吉寺」までお参りに行きました。また、沢山の地域住民の方にお越しいただき、学生たちと交流していただきました。

フィールドワークで得た内容を持ち帰り、学生たちは体験を発表することで振り返りの場を持つとともに、個々の体験を共有することができました。



・長浜市まち歩き

昼食は長浜名物の「鯖そうめん」を堪能し、北国街道沿いに続く古い街並の一角にある総称「黒壁スクエア」を散策しました。黒壁銀行の愛称で親しまれた古い銀行を改装した「黒壁ガラス館」や、ギャラリー、お土産店など、古い街並の中に点在しており、各自が自由に楽しみました。



・市立長浜病院にて研修

午後からは、市立長浜病院に訪問させていただきました。

髙折院長からご挨拶の後、病院の概要についてもご説明いただきました。

病院の特徴でもある地域がん診療連携拠点病院の役割などお話しいただき、「医療に対する姿勢をみてもらいたい」と学生たちへ呼び掛けていただきました。

長浜市の医療について説明いただき、優先順位をつけながら医療を行うことの大切さをお話しいただきました。

その後、グループに分かれ、病院見学を行っていただきました。

最後に医学科と看護学科に分かれて、本学卒業生の研修医や看護師の方を含め、学生と意見交換を行っていただき、学生からの質問に熱心に答えていただきました。

今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい長浜市・湖北地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

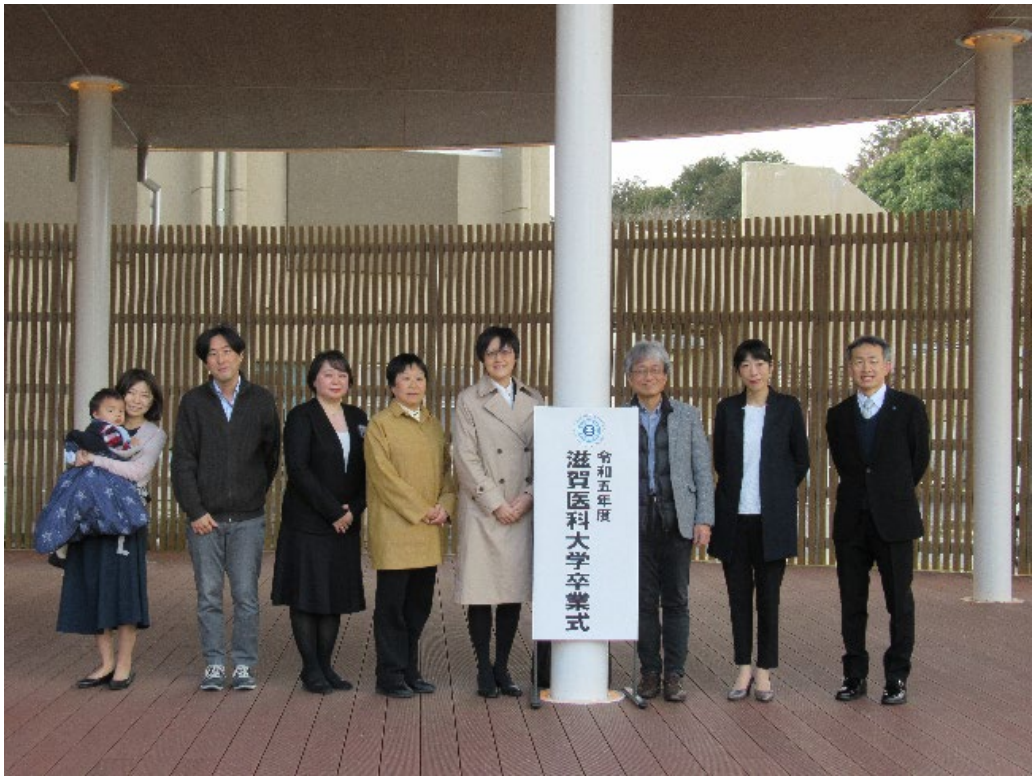
（この研修は、ＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターとの共催で実施しました。）

里親学生支援事業としての13回目の卒業生を送り出しました

2024年3月8日

令和6年3月8日（金）に令和5年度滋賀医科大学卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、13回目の卒業生（医学科5名、看護学科1名）を送り出しました。

学生たちが、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。



令和５年度　里親学生支援事業　学外研修会・意見交換会を開催しました

2024年1月25日

1 月 18 日（木）草津市立市民交流プラザにおいて「地域里親学生支援」の事業の一環である「学外研修会・意見交換会」開催しました。

今回の研修会では、滋賀医科大学公衆衛生看護学講座（訪問看護）　辻村教授から「訪問看護の魅力と課題」と題して、里子（学生）にも分かりやすく、訪問看護の在り方や利用状況、訪問看護師の必要性や課題について講演いただきました。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、過去３年間は ZOOM 配信による研修会となっていましたが、４年振りに対面で開催することができ、里親の先生方、プチ里親、後援会役員、しゃくなげ会役員の方々に参加していただきました。
和やかな雰囲気の中、里子も交え、意見交換や懇談が行われました。

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

※滋賀医科大学地域里親学生支援事業として、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年１回開催しています。

学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2023年11月7日

　１０月２８日（土）～２９日（日）に滋賀医科大学の学園祭（第４９回若鮎祭）が４年振りに開催され、里親学生支援室も、認定ＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構との合同ブースを設けました。

　ブースでは、本事業に登録していた先輩学生たちから後輩に向けたメッセージや、宿泊研修の活動内容などの展示を行いました。また、機構広報誌「めでる」等の発行物を配布し、里親学生支援事業の取り組みを広く知っていただけるようＰＲに努めました。

　今年度は展示会場が体育館となりましたが、体育館では縁日が開かれており、子ども連れのファミリーが多く、たくさんの方にご来場いただきました。

両日とも気持ちの良い秋晴れの中開催することができ、ブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

近江八幡市・沖島方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2023年9月4日

８月２４日（木）に、近江八幡市・沖島方面を訪問させていただいた夏の宿泊研修には、学生 26 名（滋賀医科大学医学科第 1～6 学年 13 名、看護学科第 1 学年 3 名、草津看護専門学校 1 年生 4 名、滋賀県立総合保健専門学校 1 年～2 年生 6 名）が参加しました。

【行程】

・沖島診療所にて研修

琵琶湖最大の島で、日本で唯一、淡水湖に浮かび、人が暮らしている沖島に渡り、公民館の一角にある沖島診療所を訪問させていただきました。この診療所は１週間に１日のみ開所し、近江八幡市蒲生郡医師会の５人の医師が当番制で島へ渡り、高齢化が進む島民の方の健康を見守っておられます。今回は安土町の杉原先生（杉原医院）に、沖島での診療所の様子などを、事前にお渡しした学生からの質問事項の回答を交えながら一つひとつ丁寧にご説明いただきました。

また、診療所のスペースが狭く、患者さんのプライバシーが守られていないなど、難点についてもお話を聞くことができました。

今回は、近江八幡市立総合医療センター 患者総合支援課 北川参事が同行してくださり、沖島診療所の運営についてもお話を聞くことができました。

昼食では、島の特産品を使ったお弁当をいただき、島を後にしました。

・地域散策

今回は時代劇のロケ地としてお馴染みの八幡堀、日牟禮八幡宮、市内に点在するヴォーリス建築の数々を、２班に分かれ、ボランティアガイドの方に説明していただきながら散策しました。

・ヴォーリズ記念病院にて研修

東近江保健医療圏にある緩和ケア病棟を有するヴォーリズ記念病院を訪問させていただきました。

五月女院長挨拶の後、前田副院長より病院の概要についてご説明いただきました。病院の特徴であるチャペルでのお祈りのお話しや、訪問診療、レスパイト入院など病院の特色についてもお話しいただきました。

また、病院内のチャペルに仕えておられるチャプレンの中村先生から、病院におけるチャペルの在り方・役割について、丁寧にお話しいただきました。遺族の方のケアも実施されており、身体の痛みだけでなく精神面の痛みにも寄り添っておられるチャプレンの特徴についても学ぶことができました。

最後に、澤谷事務長より地域包括ケアシステムについてご説明いただいた後、新築された病院内の見学を２班に分け、行っていただきました。緩和ケア病棟やリハビリテーション病棟は疾患別ではなく、機能別に配置され、社会復帰や在宅復帰を促す医療を重視したヴォーリズ記念病院の役割について学ぶことができました。

途中、三ツ浪理事長も挨拶に来ていただき、ヴォーリズ記念病院の原点についてもお話しいただきました。

今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい近江八幡市・沖島地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

（この研修は、ＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターとの共催で実施しました。）

里親登録学生と里親学生支援室員との顔合わせ（懇談会）を行いました

2023年6月15日

６月８日（木）の昼休みに、里親登録学生 15 名（新規登録学生 11 名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、ＣＭＣ（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

初めに室員、学生の自己紹介が行われ、本事業への参加理由では、地域医療への関心の高さをうかがうことができました。また、高学年の登録学生からは、里親との交流について具体的な内容を聞くことが出来ました。

その後、相見室長から里親学生支援事業の概要や、今年度の事業計画について具体的な説明があり、夏期休暇中に実施する近江八幡市・沖島方面での宿泊研修について、訪問先の紹介がありました。

また、学生に対し「研修には里親登録学生問わず、地域医療に興味を持っている友人など誘って参加して欲しい」との呼びかけがありました。

最後に、里親の先生には積極的に連絡を取り、コロナの制限も緩和されたので、病院見学に行くなど、疎遠にならないよう、交流してほしいと呼びかけがありました。

大津市・湖南地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2023年5月29日

3　月 14　日（火）に、大津市・湖南地域方面を訪問させていただいた春の宿泊研修には、学生 13　名（滋賀医科大学医学科第 1～3 学年 9 名、看護学科第 1 学年 2 名、滋賀県立大学人間看護学部 2～3 回生 2名）が参加しました。

【行程】

・びわこ学園医療福祉センター草津にて研修

重度の知的障害、肢体不自由が重複している方々の福祉施設と病院機能を併せもったびわこ学園を訪問させていただきました。

逸見看護部長から施設の概要について説明していただき、施設が湖南地域に集中している問題点や、入所者の約６割の方が医療的ケアが必要とされているなど、様々なお話しを行っていただき、入所者の方のライフステージに沿ったくらしを提供されていることを学ばせていただきました。また、２班に分かれて施設見学を行っていただいた後、学生からの質問にたくさん答えていただきました。

・琵琶湖病院にて研修

琵琶湖西岸の山裾にある精神科（単科）病院の琵琶湖病院を訪問させていただきました。石田院長の挨拶の後、稲垣思春期青年期治療部長より病院の概要や、精神科病棟ならではの工夫されている内容についてご説明いただきました。また、高野看護部長より精神科病棟における看護の現場についてお話しいただきました。最後に本学卒業生の榎本医師（専攻医）もご参加いただき、学生からの質問に熱心に答えていただきました。

・地域散策

大津市の西部にある近江神宮を参拝しました。

色鮮やかな楼門や、近代神社建築などの説明を聞きながら、普段と違った角度から見ることができました。

百人一首を題材とした映画「ちはやふる」の舞台にもなっていた、境内にある近江勧学館も見学させていただきました。

・市立大津市民病院にて研修

地域医療支援病院である市立大津市民病院を訪問させていただきました。水野事務部長より病院の概要や、大津市の医療の在り方、総合診療科の必要性についてお話しいただきました。また本病院の働き方改革についてもお話しいただき、最後にヘリポートや感染症 ER など病院内を見学させていただきました。

コロナの影響により宿泊による交流会が実施できなかったため、最後は大学へ戻り、Zoom 配信にて勉強会を実施しました。

はじめに、市立大津市民病院　辻桂嗣感染症科診療部長に『地域における市立大津市民病院の役割』と題してご講演いただきました。その後、大津市保健所の方々や里親、プチ里親の方々もご参加いただき、ディスカッションを行うことが出来ました。

今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい大津市・湖南地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

（この研修は、ＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターとの共催で実施しました。）

里親学生支援事業としての12回目の卒業生を送り出しました

2023年3月10日

令和5年3月10日（金）に令和4年度滋賀医科大学卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、12回目の卒業生（医学科10名、看護学科5名）を送り出しました。

学生たちが、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。

令和４年度　里親・プチ里親等対象の学外研修会（交流会）を開催しました

2023年1月16日

1 月 12 日（木）対面及び ZOOM 配信によるハイブリッド形式にて里親学生支援事業の一環である「学外研修会（交流会）」を開催しました。

今回の研修会では、滋賀県内で精神科の医療に携わっておられる琵琶湖病院 思春期青年期治療部長 稲垣貴彦先生に『県内における子どもの心の診療ネットワークの構築と活動』と題してご講演いただきました。

県内における子どものこころ専門医の少なさなど、様々な課題も挙げていただきながら、精神医療全体での役割や専門医の育成についても詳しく説明いただきました。

参加学生からの質問にも丁寧にお答えいただき、最後、学生に向け「今後、目指す診療科において、精神科以外でもメンタルヘルスに関わらない科はないので、是非県内の子どもの心の診療ネットワークに参加してください」と呼びかけがありました。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、ハイブリッド形式による研修会となりましたが、里親の先生方、プチ里親、後援会役員、しゃくなげ会役員の方々にご参加いただき、里子も交え、充実した研修会となりました。

お忙しい中、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

※滋賀医科大学地域里親学生支援事業として、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年１回開催しています。

（この研修は、ＮＰＯ滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

彦根市・米原市方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2022年9月12日

8 月 29 日（月）に、地域理解・交流事業「夏の宿泊研修」をオンライン配信で実施しました。当初の予定では彦根市・米原市方面の各施設を訪問し、見学等を行う予定でしたが、コロナの感染拡大の影響により、実地見学を中止せざる得ない状況となり、急遽、オンライン配信に変更し、研修を行っていただきました。参加学生は、各自が事前学習での疑問点などについて質問を行ったりと、４つの施設のお話を聞くことができ、大変充実した内容であったとの声がありました。
学生 14 名（滋賀医科大学医学科第 1～4 学年 10 名、看護学科第 1～2 学年 3 名、滋賀県立大学人間看護学部第 1 学年 1 名）が参加しました。

【当日の内容】

各施設のオンライン研修会　13:30～17:30

・彦根市立病院の研修

金子院長から病院の概要についてお話いただいた後、在宅診療科の兒玉医師より「在宅医療支援室・在宅診療科の活動」について、ご説明いただきました。最後に、上村看護部長より「地域医療・在宅医療の取組」についてご説明いただきました。在宅訪問では特定行為の実践にて、在宅に居ながら胃ろう交換や内視鏡を用いて胃内挿入を行い、患者さまの通院の負担を減らす取り組みを行っておられるなど、在宅医療の在り方などを学ばせていただきました。

・米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」の研修

中村センター長から地域医療についてお話いただきました。ご自身の歩まれた道、施設の立ち上げなど、高齢者だけではなく、小児や障がい者の方が生き生きできる地域づくりを目指し、充実した地域包括ケアの取り組みについて、患者さまやご家族の方の声も聞かせていただき、米原市における地域包括ケアの在り方について学ばせていただきました。

・豊郷病院の研修

横田院長から自己紹介及び病院の概要についてお話いただいた後、ご兄妹で九州から入職された看護師の方に豊郷病院での働き方についてお話いただきました。湖東地域で唯一、精神科の入院治療が可能な診療を行い、また、開業医が少ない土地柄であるため、かかりつけ医の役割も担い、地域に密着した病院であることなどについて学ばせていただきました。医療従事者が働き易いアットホームな職場環境を伺うことができました。

・地域包括ケアセンターいぶきの研修

畑野センター長から施設の建設に至った経緯や概要についてお話いただきました。赤ちゃんからお年寄りまで診ることのできる地域包括医療の展開や、医療・福祉・保健の 3 機能を連携した地域包括ケアのまちづくりに貢献されてきた流れなどについて、在宅医療の思い・大切さについて学ぶことができました。

講演・意見交換会　18:00～19:00

コロナの影響により宿泊による交流会が実施できなかったため、各施設のオンライン研修が終了してから、今回も Zoom 配信にて勉強会を実施しました。

はじめに、彦根市立病院　在宅医療支援室長　宮澤医師に『地域における彦根市立病院の役割』と題してご講演いただきました。「救急搬送を絶対に断らない方針」を掲げられ、急性期病院の役割や回復期病院としての役割など地域包括ケアシステムを構築された彦根市立病院の特徴についてお話いただきました。

その後、里親、プチ里親の方々もご参加いただき、里親の先生からは行政目線のお話も聞くことができ、学びの多いディスカッションを行うことが出来ました。

今回も、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。
豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい彦根市・米原市地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

（この研修は、ＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターとの共催で実施しました。）

『里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ（懇談会）を行いました』

2022年6月16日

６月９日（木）の昼休みに、里親登録学生 14 名（新規登録学生 13 名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、ＣＭＣ（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

初めに室員、学生の自己紹介が行われ、その後、相見室長から里親学生支援事業の概要や、今年度の事業計画について具体的な説明がありました。
また、室員の先生方より、地域医療についてセミナーや講演会などの開催案内や、施設見学の紹介など、様々な案内がありました。
最後に里親の先生方へは、遠慮せずにメールを送り、不安に思っていることなどを相談しながら、交流してほしいと呼びかけがありました。

甲賀市・湖南市方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2022年5月19日

3 月 17 日（木）に、甲賀市・湖南市方面を訪問させていただいた春の宿泊研修は、コロナの影響により 2 年振りとなる研修でしたが、正午から日帰りで実施し、学生 23 名（滋賀医科大学医学科第 1～6 学年 13 名、看護学科第 1～4 学年 10 名）が参加しました。

【行程】

学生は散策と紫香楽病院に分かれて研修を行いました。

・信楽の街散策

「信楽陶芸村」にある登り窯を見学しました。店主の方に登り窯の説明していただき、タヌキの焼き物などの由来について学びました。

・紫香楽病院にて研修

紫香楽病院には医学科 6 名、看護学科 3 名の学生が訪問しました。大野院長の挨拶のあと、金診療部長から病院の概要について説明を受けました。中島教育担当看護師長より重症心身障害児(者)の看護について説明していただきました。最後に鳴門副院長より療育指導室の見学をリモートで行っていただきました。

続いて、水口病院、こうせい駅前診療所に分かれて病院を訪問しました。

・水口病院にて研修

湖東、湖南・甲賀地域の精神科医療を担う精神科（単科）の病院である水口病院には、医学生・看護学生 11 名が訪問させていただきました。

與那城看護部長から水口病院の概要についてご説明をいただいた後、その後、病院見学を行っていただきました。最後に青木院長から挨拶があり、学生からの質問に答えていただきました。

・こうせい駅前診療所にて研修

こうせい駅前診療所には、医学生・看護学生 12 名が訪問させていただきました。佐々木所長から診療所の見学を行っていただいた後、施設の概要、コロナ禍での対応など診療所の在り方について説明していただきました。また、生協の湖南甲賀支部の市川事務局長より、診療所が出来るまでの

経緯を説明していただき、「命と健康を守るまちづくり」として『地域まるごと健康づくり』を掲げ活動を行っておられるなど、医療生協との関わりについてお話いただきました。

最後は公立甲賀病院にて合流し、全員で研修を行いました。

・公立甲賀病院にて研修

甲賀・湖南地域の中核病院である公立甲賀病院を訪問させていただきました。辻川院長より病院の概要を説明していただき、その後、医学科・看護学科の２班に分かれて病院見学を行っていただきました。リハビリテーションの充実など、治療後の生活まで考えられており、回復期への移行の重要性を学ばせていただきました。

コロナの影響により宿泊による交流会が実施できなかったため、最後は大学へ戻り、Zoom 配信にて勉強会を実施しました。

はじめに、公立甲賀病院　辻川知之院長に『地域における甲賀病院の役割、滋賀医大理事からみた地域医療』と題してご講演いただきました。その後、訪問先の関係者の方々や里親、プチ里親の方々もご参加いただき、ディスカッションを行うことが出来ました。また、参加学生の報告会なども行われ、自分の訪問病院以外での研修内容も把握することができました。

今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい甲賀市・湖南市地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

（この研修は、ＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターとの共催で実施しました。）

令和３年度 「里親学生支援事業」学外研修会・意見交換会を開催しました

2022年2月16日

2月4日（金）ZOOM配信にて「地域里親学生支援事業」の一環である「学外研修会・意見交換会」を滋賀医療人育成協力機構との共催で開催しました。

今回の研修会では、本事業の取組を振り返り、経験豊富な里親の先生方（松本道明先生、松井善典先生、木築野百合先生）をパネリスト、本事業の立ち上げに携われた垰田先生をアドバイザーにお迎えし、ディスカッションを行っていただきました。

先生方からは本制度の良さとして、今の若者との接点があることで今どきの学生の姿が見えてる、入学時から本制度が開始でき医師・看護師などの先生方と接点が持てる、学生とのふれあいにより自己のリフレッシュにもつながっている、などの意見がありました。

また、メールの反応が遅い、連絡がメールなので、過去のメール文を探したりするのが大変なので、今後はLineなど、他のツールに変更した方がよいのではといった改善点に関する意見があり、今後の連絡方法にも工夫が必要であることがわかりました。

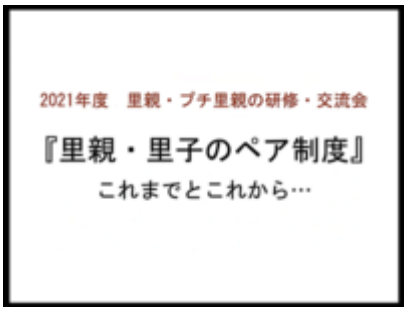
今後の課題として、登録時から卒業まで同じ里親の先生ではなく、学年が進むにつれて、進路や興味が変わるので、再マッチングをしてみては？とのご意見もありました。

里子からも「医者と気軽に接したいと思い登録をしたが、今の里親の先生から返信がなく、どうしてよいか分からなかったが、先生方の思いを知り、自分から、もっと気軽にメールをしてみようと思った」との意見がありました。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、今年度もZOOM配信による研修会となりましたが、当日は23名の里親の先生方、プチ里親の方々に参加いただきました。また里子も交え、意見交換が行われました。

今後の里親制度の在り方など、先生方の意見を踏まえ、より良いものにしていきたいと思っております。

お忙しい中、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



「第6回びわ湖家庭医療フォーラム」「第18回卒業後の自分を考える連続自主講座」が開催されました。

2022年1月17日

令和3年12月12日(日)「第6回びわ湖家庭医療フォーラム」「第18回卒業後の自分を考える連続自主講座」が、日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部との共催で、オンライン配信により行われました。当日は、医学生、初期研修医、指導医等38名の参加者がありました。

メイン講演では、河北ファミリークリニック南阿佐谷　山下洋充先生と大津ファミリークリニック　院長　中山明子先生から、総合診療医が遭遇する多様な症例への対応について、質疑応答を交えてお話しいただきました。

後半の後期研修医企画では、専攻医による事例紹介、パネルディスカッションやプログラム紹介が行われました。

参加者からは「家庭医の守備範囲の広さを感じた」「診療所でできる範囲の広さを知れた」等の声が寄せられ、大変ご好評いただきました。家庭医療・総合診療の魅力を知ってもらう機会となりました。

「第5回びわ湖家庭医療フォーラム」「卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

2021年10月11日

令和3年7月4日（日）ZOOM配信にて「第5回びわ湖家庭医療フォーラム」「卒業後の自分を考える連続自主講座」を日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部との共催で開催しました。医師、薬剤師、医学生、合計25名の参加がありました。

大阪医科薬科大学地域総合医療科学寄付講座　特任教授　鈴木富雄先生から『いま注目の総合診療医の役割、めざすきっかけや総合診療医の魅力』についてご講演いただきました。

その後、滋賀県内2機関の後期研修プログラムの紹介があり、プログラム担当指導医・専攻医と参加者で質疑応答が行われ、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われました。

参加学生からは「鈴木先生から総合診療医の役割について詳しく聞くことができ、将来像が想像しやすくなりました。」「低学年のうちから、臨床現場の様子などを知る機会が持てることは、とても良い刺激になりました。」といった感想が寄せられ、有意義な時間となりました。

里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ（懇談会）を行いました

2021年6月14日

６月１０日（木）の昼休みに、里親登録学生29名（新規登録学生21名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、CMC（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

　初めに室員、学生の自己紹介が行われ、その後、相見室長から里親学生支援事業の概要や、今年度の事業計画について具体的な説明がありました。

相見室長からは『学生の自己紹介の中で、里親の参加理由に「地域医療」という言葉が多く見受けられており、「地域医療」がキーワードになってきているので、里親学生支援事業に積極的に参加してもらい、将来滋賀の医療に携わってもらえたら』との呼びかけがありました。

事業活動等は、ホームページをご覧下さい。登録はホームページ（https://satooya.shiga-med.ac.jp/contact/bosyu.html）から行えます。

また以下のURLより申込み用紙をダウンロードし、郵送にて送付いただいても結構です。

里親用申し込み用紙（マッチングアンケート）.pdf

同プログラムの趣旨をご理解いただき、卒後滋賀県内で働くことに興味を持っている学生を一人でも多く支援していただきますよう、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

里親学生支援事業としての10回目の卒業生を送り出しました

2021年3月10日

令和3年3月9日（火）に令和2年度滋賀医科大学卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、10回目の卒業生（医学科8名、看護学科3名）を送り出しました。

学生たちが、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。

令和2年度　FD（教育技能）研修会・意見交換会を開催しました

2021年3月 4日

2月18日（木）ZOOM配信にて「地域里親学生支援」の事業の一環である「FD研修会・意見交換会」開催しました。

今回の研修会では、滋賀医科大学医学・看護学教育センター　向所教授から「滋賀医大が目指す地域医療教育」と題して、偉人の格言等を交えながら、医師や看護師の求められる資質に始まり、里親学生支援室の活動や大学の支援体制等について講演いただきました。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、初の試みであるZOOM配信による研修会となりましたが、里親の先生方、プチ里親、後援会役員、しゃくなげ会役員の方々に参加していただきました。また里子も交え、意見交換が行われました。

お忙しい中、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

※滋賀医科大学地域里親学生支援事業として、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地

影響で日帰りになりそうだが、研修にはより多くの学生が参加して欲しいので地域医療に興味を持っている友人などを誘って気軽に参加してください」との呼びかけがありました。

【7/4開催】「第3回びわ湖家庭医療フォーラム」「第16回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催します！

2020年6月15日

医学科生各位

里親学生支援室では、滋賀医療人育成協力機構及び日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部と共催で、「びわ湖家庭医療フォーラム」を、下記のとおり開催します。

将来の進路を考える一助となるよう、ぜひご参加ください。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
滋賀医大の学生のみなさま

皆さんこんにちは。
日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部の大竹要生と申します。
今回は、医学生、初期研修医の皆さんを対象にしたイベントの紹介です。
来たる2020年7月4日（土）に、第3回びわこ家庭医療フォーラムをオンライン配信にて開催致します。
例年、滋賀医大を会場に行っているオープンイベントです。

「総合診療医という選択の魅力とキャリアとは」というテーマで、
滋賀医大ご出身で現在大阪医大にお勤めの三澤美和先生に登壇いただき、
ワークライフバランスの現実と葛藤、ロールモデルとの出会い、
キャリアの多様性についてお話ししていただきます。
また、滋賀県内6機関の後期研修プログラムの簡単な概要紹介や

お申し込み期限：2020年6月28日金曜日 締切
企画紹介ページ（下記リンクをまずはご確認ください！）
https://med.antaa.jp/?p=9311&preview=1&_ppp=0793094c85

皆様のご参加を心からお待ちしています。

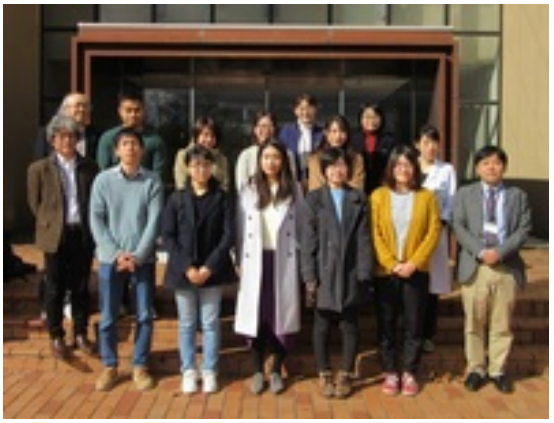
日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部
支部長 雨森 正記
大竹 要生
（事務局 清水義平）

里親学生支援事業としての9回目の卒業生を送り出しました

2020年3月16日

令和2年3月10日（火）に令和元年度滋賀医科大学卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、9回目の卒業生（医学科10名、看護学科4名）を送り出しました。

学生達が、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。



第15回『卒業後の自分を考える連続自主講座』『第5回世界に羽ばたく医師シリーズ』を開催しました。

2019年12月27日

2019年12月1日（日）滋賀医科大学構内にて、臨床留学のバイブル的存在である『海外医学留学のすべて』（日本医事新報社）など多数出版されている島田悠一先生（コロンビア大学医学部循環器内科）をお招きし、特別講演を行いました。米国医学の現状や日米の研修制度の違い、医師の働き方についてご講演いただき、英語での医療面接実習を行っていただきました。滋賀医科大学のみならず、各地の大学から22名の参加があり、大変盛り上がりました

学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2019年10月31日

10月26日（土）～27日（日）に滋賀医科大学の学園祭（第45回若鮎祭）が開催され、里親学生支援室も、昨年と同様に福利棟の一角で、認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構との合同ブースを設けました。

ブースでは、宿泊研修や卒業後の自分を考える連続自主講座を中心とした活動ポスターの展示を行いました。また、機構広報誌「めでる」等の発行物を配布し、里親学生支援事業の取り組みを広く知っていただけるようPRに努めました。

今年度より展示会場（福利棟1階）では、ステージが設置され、アカペラサークルなど音楽を聴きながら、展示を楽しめるようになり、たくさんの方にご来場いただきました。

両日とも気持ちの良い秋晴れの中開催することができ、ブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

第１４回「卒業後の自分を考える連続自主講座」『第２回びわ湖家庭医療フォーラム』を開催しました。

2019年9月17日

７月６日（土）滋賀医科大学構内において、日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部と共催で開催されました。

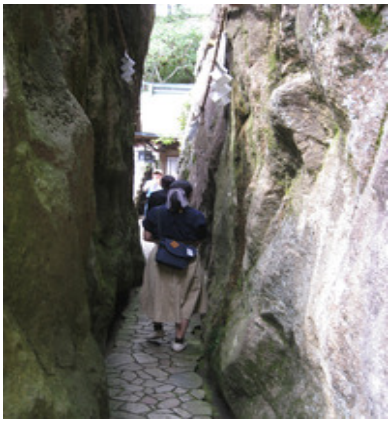
当日は滋賀県内の指導医の先生を始め、専攻医や初期研修医の先生、医学生の皆様などを含めると、合計３６名の参加がありました。

総合診療・家庭医療に関心がある皆様による研修交流の絶好の機会となり、充実した一時を過ごしていただきました。

※実施内容はこちら⇒実施報告.pdf

旧八日市市にある通称:太郎坊宮を訪問しました。太郎坊宮は標高350mの赤神山(太郎坊山)に建つ神社で、大昔から「神様の山」「天狗が住む山」「修験道修行の霊山」とされてきました。麓からは740段余りの階段が連なりますが、中型バスで中腹駐車場まで行き、本殿まで約260段の階段を登りきると蒲生野ののどかな田園風景が一面広がっていました。

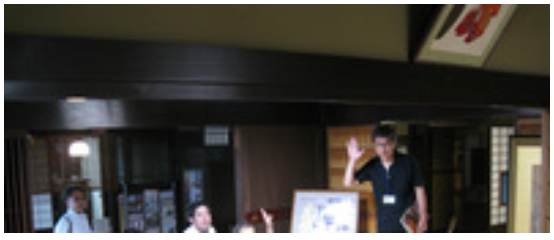
また、本殿の前には東近江市指定天然記念物の「夫婦岩」があり、神様のお力によって押し開かれたと云われる大岩がそびえ立ち、この巨岩の間を通る時は心が引き締まり、神秘的な空間を感じることができました。



・近江日野商人ふるさと館（旧山中正吉邸）見学・昼食

日野町に残る商人の元本宅を訪れました。日野町役場の方の説明を受けながら、邸宅を見学しました。この邸宅は江戸時代末期に建てられたもので、土間の奥にはおくどさんが構えており、懐かしさを感じました。また、ステンドグラス・シャワー室完備の浴室や昔の電話機などがあり、この時代の商人の暮らしぶりを感じることができました。

また、昼食は地元のご婦人たちが地産地消・全て手作りにこだわった日野の伝統料理を、庭園に面した客間で、総漆の祝い膳でいただきました。休館日にもかかわらず、ご対応いただき、ありがとうございました。



・日野記念病院にて研修

午後からの最初の研修先として、日野記念病院を訪問しました。日野記念病院は日野町では唯一の病院で、医療法人社団昴会の湖東記念病院、能登川病院のそれぞれの病院が持つ特色を共有化し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに医療を通して貢献されています。

研修に際し、仲院長から病院の概要や特色についてお話しいただいた後、本学医学科卒業生の安岡公美子先生よりご自身の聴覚障害のことも踏まえ自己紹介していただき、耳鼻咽喉科の専門医として地域医療に貢献されている喜びをお話いただきました。また、西山看護部長より看護業務についてお話しいただきました。その後、仲院長の案内で施設の見学をさせていただきました。

・東近江総合医療センターにて研修

「滋賀医科大学　地域医療教育研究拠点」として位置づけられている国立病院機構東近江総合医療センターを訪問しました。東近江総合医療センターは東近江圏域で地域に根ざした中核病院として信頼される病院を目指し、「良い医療、信頼される医療、高度な医療」を掲げ、地域医療に貢献されています。

研修に際し、目片副院長から病院の概要や特色についてお話しいただきました。

その後、3班に分かれて産科や結核病床を有する特徴的な病棟、最新設備を備えた内視鏡室、リハビリテーション科の機能訓練室等を順番に案内していただき、病院内の施設見学を行うとともに、本学卒業生の中島医師や武久看護師等による指導のもと、スキルズラボに設置されている診療系シミュレーター、看護系シミュレーターを用いた院内体験をさせていた

・交流会

夕方は、宿泊先のクレフィール湖東において交流会を開催しました。

交流会第1部では、小椋正清東近江市長からご挨拶いただきました。

続いて、永源寺診療所の花戸貴司所長より「三方よし研究会」についてご紹介をしていただき、三方よし研究会の小梶猛副会長、NPO法人加楽の楠神渉理事長より、それぞれご講演いただきました。

また、東近江市からは、今秋収穫されたばかりの梨を学生たちに食べてほしいとお土産をいただきました。

【２日目】

・百済寺拝観

宿泊研修2日目は、宿泊先のクレフィール湖東を出発し、湖東三山の一つである百済寺を訪問しました。あいにくの雨でしたが、東近江市役所の方のガイドにより百済寺の歴史を感じることができました。

・永源寺診療所にて研修

永源寺東部出張診療所を併設する道の駅奥永源寺渓流の里に立ち寄った後、日登美山荘で郷土料理をいただき、午後からは二つ目の研修施設である永源寺診療所を訪問しました。東部出張診療所と永源寺診療所を拠点として地域医療に尽力されている自治医科大学出身の花戸先生は、本事業の里親でもあり、全国から注目されている永源寺でのチーム医療について詳しく説明していただき、参加した学生たちから熱心に多くの質問がありました。

また、猛暑と悪天候により当日急に体調が悪くなってしまった学生を救急で診てくださり、速やかな対応に診療所ならではの温かさを感じることができました。花戸先生、外スタッフの皆様ありがとうございました。

・近江温泉病院にて研修

宿泊研修最後の研修先として、近江温泉病院を訪問しました。近江温泉病院は、里親学生支援事業としては初めて訪問させていただく病院で、療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、認知症病棟を有し、主に急性期治療を終えた患者さんに対し近隣の病院と連携して地域医療に貢献されています。

始めに小山院長から病院の概要や特色についてご説明いただき、その後、赤松看護師長と板谷精神保健福祉士の案内により回復期リハビリテーション病棟と認知症疾患医療センターを見学させていただきました。

今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい東近江地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

（この研修は、NPO滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ（懇談会）を行いました

2019年6月14日

6月10日（月）の昼休みに、里親登録学生13名（新登録学生7名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、CMC（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

初めに室員や事務スタッフ、学生の自己紹介が行われ、その後、垰田室長から里親学生

高島市方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2019年4月23日

3月18日（月）・19日（火）に、高島市方面を訪問させていただいた春の宿泊研修には、学生9名（滋賀医科大学医学科第2～4学年3名、看護学科第1～3学年6名）が参加しました。

【1日目】

・白髭神社見学

高島方面へ向かう途中、白髭神社を訪問しました。琵琶湖に浮かぶ朱塗りの大鳥居が特徴で、世界遺産・厳島神社を彷彿とさせる光景から”近江の厳島”とも呼ばれています。創建は約1900年前で、近江最古の神社とされていて、全国にある白髭神社の総本社ともされています。

皆さん、国道161号線はよく通行するものの、あまり白髭神社に立ち寄ったことはなかったようで、改めて、その歴史を学ぶとともに、沖島を背景に琵琶湖に浮かぶ大鳥居の景観を写真に納めていました。

・特別養護老人ホーム清風荘にて研修

今回の宿泊研修の最初の研修先として、特別養護老人ホーム清風荘を訪問しました。清風荘では、

生活相談員の林様から施設の概要についてお話をいただきました。

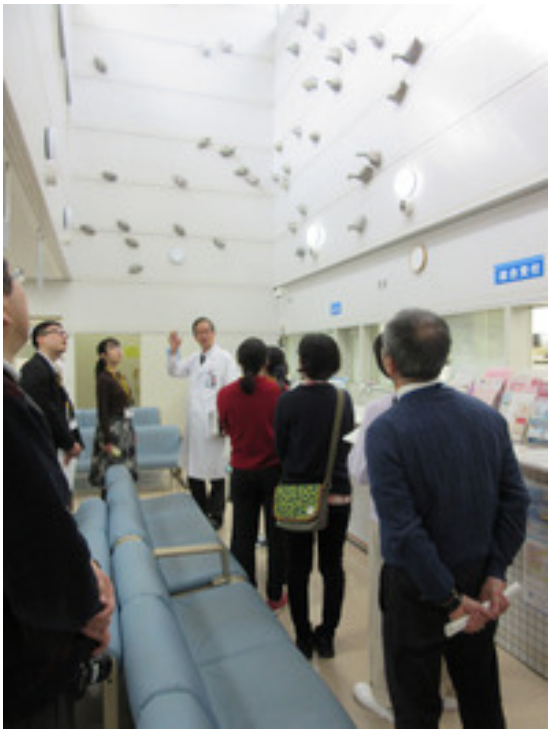
・今津病院にて研修

　サンブリッジホテルで昼食をいただいた後、午後からの最初の研修先として、今津病院を訪問しました。今津病院は、里親学生支援事業としては初めて訪問させていただく病院で、湖西地域では唯一の回復期リハビリテーション病棟を開設するなど、高島市、大津市、長浜市から各疾患の手術後・発症後の患者さんに早期にリハビリテーションを実施し、住み慣れた自宅での療養に繋げることを目標とされています。

あいにく、瀬本院長先生はご不在でしたが、岸本理事長からご挨拶をいただき、仁賀事務長、上松看護部長、前川リハビリテーション室長から、今津病院の概要についてお話をいただきました。

その後、仁賀事務長や上松看護部長の案内で施設の見学をさせていただき、会議室に戻った後に、本学出身の岩城 秀出洙先生から透析センターの概要や高島市での暮らしについて説明がありました。加えて、本学看護学科卒業生の看護師 吉永さんもお見えいただき、今津病院の看護業務についてお話しいただきました。

ることになったとの紹介があり、外科の専門医として地域医療に一層の貢献が期待されると喜んでおられました。



・メタセコイア並木の見学

　マキノ病院を辞して、平成6年、読売新聞社の「新・日本街路樹百景」に選定されたメタセコイア並木を見学しました。

まっすぐ伸びた県道小荒路牧野沢線の両側には、延長約2.4kmにわたりメタセコイアが約500本植えられ、その景観はとても雄大なものでした。季節的にはあいにくの時期でしたが、初めて訪れた学生もいてその並木の長さに感激していました。

交流会第1部では、高島市健康福祉部健康推進課 青谷 光恵 課長から挨拶があり、健康支援課の水浦 久美 主監と、地域包括支援課の古谷 靖子 主監から、「湖西地域の医療福祉の現状と課題」と題し、高島市民病院 岡田 裕子 看護師長から「ひとりひとりの多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の必要性」と題してご講演いただきました。

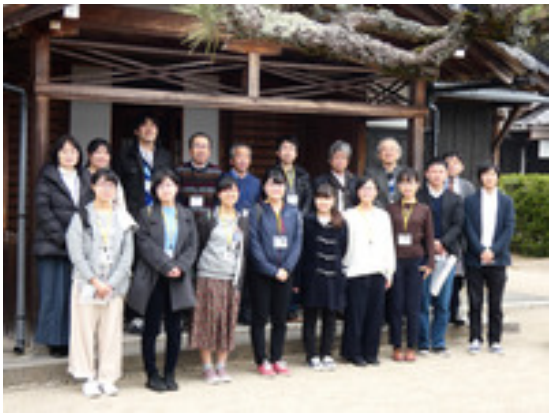
交流会第2部では、訪問先の関係者の方々や地域の方、里親の方々もご参加いただきました。特に、自治医科大学出身で、現在高島市民病院で初期研修を行っておられ、これまで数多く里親学生支援事業に参加していただいた八坂先生も参加していただき、大いに盛り上がりました。

訪問先の先生方からは、「高島市は自然に恵まれた風光明媚な土地であり、気持ちのやさしい住民の方も多く、是非卒業後は湖西地域の医療活動に貢献していただきたい！」といった期待の声も寄せられ、和やかな意見交換、懇談の場となりました。

琵琶湖周航の歌は、加藤登紀子さんが歌われて国民的に親しまれていますが、資料館の方の説明を受けて歌の由来について知ることができました。

・藤樹書院跡の見学

続いてバスは安曇川町まで南下し、人々をひとしく愛した近江聖人　中江藤樹が庶民のために開いた日本最初の私塾「藤樹書院」を訪問し、江戸の儒学者　中江藤樹の生涯や教えについての説明を伺いました。



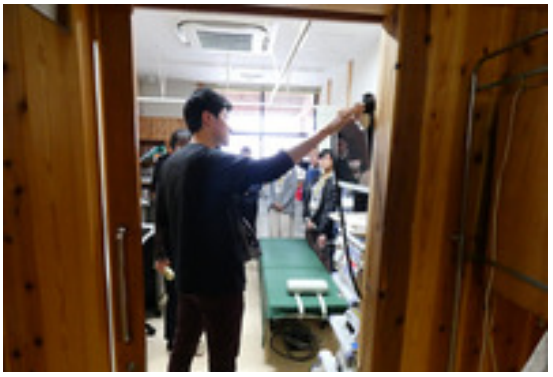
こ皆さんの努力による質の高いサービスの提供は、平成30年度の介護サービス満足度調査でも高い評価を受けておられました。

・高島市民病院朽木診療所にて研修

道の駅藤樹の里あどがわで昼食をとった後、本日二つ目の研修場所である「朽木診療所」に向かいました。安曇川町から一つ山を越え安曇川沿いにバスを進めると、辺りが急に開けて旧朽木村に入り、その中心地に朽木診療所はありました。診療所は高島市内産のスギ・ヒノキをふんだんに利用した木の温もりを感じられる木造平屋建てで、その中で、自治医科大学出身の増田 翔吾 先生が待っていてくださいました。

朽木診療所は高島市民病院朽木診療所に改組され、増田先生から、外来診療、訪問診療、往診などの診療所での診療の状況や、地域の特徴について熱心に説明していただきました。

その後、施設内と診療所周辺を散策し、朽木地域の自然に触れるとともに、珍しい建築物などを見学しました。



今回の宿泊研修の最後の研修先として、湖西地域の中核病院である高島市民病院を訪問しました。

最初に小泉副院長から歓迎のご挨拶をいただき、続いて本学出身の上野 哲 内科部長から、湖西地域における高島市民病院の概要と役割についてお話をいただきました。さらに、病院事業管理者の髙山 博史 先生から、これからの医療に求められることや若い医師への期待について、熱くお話しいただきました。

その後、上野先生、小谷看護部長、本学出身の松岡先生のご案内で、機能的できれいに整理された外来や検査室、そして清潔な病棟などを見学させていただきました。

今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい湖西地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

（この研修は、NPO滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

滋賀医科大学『地域「里親」学生支援事業』記念シンポジウムを開催しました

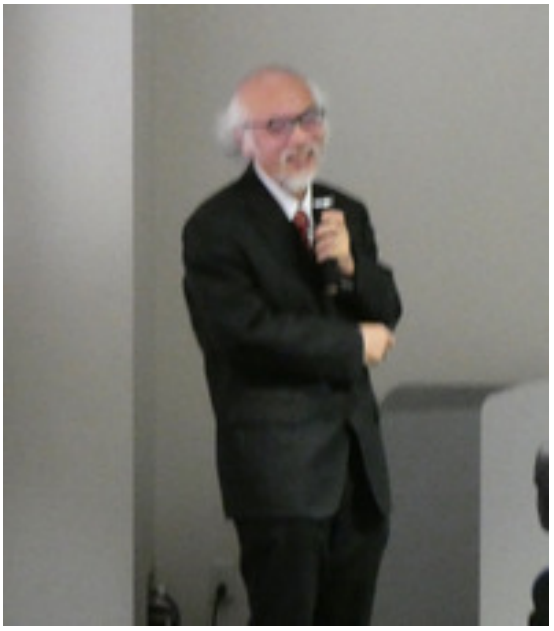
2019年2月26日

里親学生支援室では、2019年2月10日（日）に『地域「里親」学生支援事業』の10年を振り返り、今後の滋賀県の医療の担い手である医師・看護師育成の取り組みを展望するために、本学及び認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構が共催し、シンポジウムを開催しました。

学長の挨拶、垰田室長による事業報告の後、各方面からお招きしたシンポジストの方々に、短い時間ではありましたがそれぞれのお立場からテーマに沿った形で、現状の報告や今後の方向性などスライドを交えてご講演いただきました。

滋賀県健康医療福祉部 理事 角野 文彦 氏からは、行政の立場から滋賀県における安定した医師確保システム、働きたいと思える魅力ある病院づくり、女性医師の働きやすい環境づくりなどについてお話いただきました。

滋賀県医師会 理事 木築 野百合 氏からは、県内の医師の偏在の実情をご説明いただき、また女性医師の重要性や働き方改革、災害時の滋賀県独自の医療体制の必要性についてもお話いただきました。



滋賀県看護協会 会長 廣原 惠子 氏からは、看護師の実情と看護職が生涯を通して働き続けられるための環境作りの大切さなどについてお話しいただきました。

シンポジウム終了後には、懇親会を開催し、各医療関係者や行政・里親・プチ里親・里親登録学生などが交流し、今後の参考となるような貴重なご意見等をいただくなど、活発な意見交換の場となりました。

医療関係、行政、里親・プチ里親、各種団体の方など、約40名のご参加をいただき、大変有意義なシンポジウムとなりました。

お忙しい中ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。

学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2018年11月 2日

10月27日（土）～28日（日）に滋賀医科大学の学園祭（第44回若鮎祭）が開催され、里親学生支援室も、昨年と同様に福利棟の一角で、認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構との合同ブースを設けました。

ブースでは、宿泊研修や卒業後の自分を考える連続自主講座を中心とした活動ポスターの展示を行いました。また、機構広報誌「めでる」等の発行物を配布し、里親学生支援事業の取り組みを広く知っていただけるようPRに努めました。

里親の先生より事前に連絡をいただき、里子との交流の場にもなりました。

両日とも気持ちの良い秋晴れの中開催することができ、たくさんの方にご来場いただきました。

今回は、滋賀医科大学を卒業し、臨床の現場で活躍されている看護師おふたりから話を伺いました。

榎浪綾花看護師（滋賀医科大学医学部附属病院看護部手術部、看護学科19期生）からは、学生時代から手術部勤務3年目の現在までの道のり、仕事のやりがいや苦労をお話いただきました。

吉田和寛看護師（滋賀医科大学医学部附属病院看護部 副看護師長、リサーチナース/特定看護師（ICU・救急・麻酔科）、看護学科7期生）からは、看護師になると決めた高校生から現在までのキャリアパス、今後の目標などを、プライベートなお話も交え分かりやすくお話いただきました。

7人の参加学生は、興味のある分野で働く先輩の経験談を熱心に聴いていました。活発な質疑応答の様子もみられ、将来の参考になったようでした。

・長浜市立湖北病院にて研修

滋賀県で一番北に位置する湖北病院を訪問しました。湖北病院は長浜地域の地域医療の第一線の医療機関で、東野克巳副院長から歓迎のご挨拶をいただき、続いて本学出身の辻本医師から、湖北病院の特徴や医療過疎地区における冬季の積雪の多さなど、熱心にご説明いただきました。

また、地域包括支援センターの宮本社会福祉士から、湖北地域における高齢者の支援状況、介護ニーズの増加に伴う病院や職種を超えた連携の必要性などについてご説明いただきました。

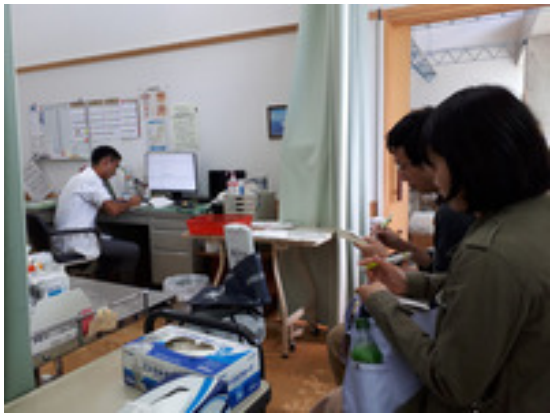
その後、副院長のご案内で、滋賀県最北の診療所である「中河内診療所」を訪問しました。そこはほぼ福井県との県境に位置し、冬季は豪雪に見舞われますが、湖北病院の管理により定期的に診療が行われています。

・交流会

第1部では、藤井勇治長浜市長から、長浜地域の医療行政の状況についてご挨拶いただき、最後に市長から、是非風光明美な湖北長浜で医師・看護師として活躍していただきたいとのお話がありました。

続いて浅井東診療所の松井善典所長から「診療所からみた湖北地域の医療福祉～ケアの協調性をテーマに～」、長浜市健康福祉部健康推進課の横田留里課長から「湖北地域の医療福祉の現状と課題」をご講演いただきました。

交流会2部では、訪問先の関係者の方々や行政の方々にご参加いただき学生と交流され、貴重な意見交換、懇談の場となりました。

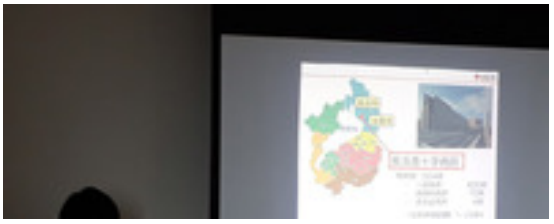


・市立長浜病院

市立長浜病院には、医学科、看護学科それぞれ4名ずつ計8名の学生が訪問し、看護科の草野科長補佐のご案内で病院見学をさせていただきました。その後、医学科と看護学科に分かれ、医学科では本学卒業生の廣坂雄介専攻医と田中葵研修医と、看護学科では若松希看護師と交流会にも参加いただいた齋藤美佑看護師と、それぞれ意見交換を行い、交流を深めていました。

・長浜赤十字病院

長浜赤十字病院には、医学科、看護学科それぞれ4名ずつ計8名の学生が訪問し、塩見尚礼副院長（兼）第一外科部長のご案内で病院見学をさせていただきました。その後、医学科と看護学科に分かれ、医学科では本学卒業生の奥長隼研修医と、看護学科では奥野佐千子副部長、本学卒業生の田村明音助産師と意見交換を行い、交流を深めていました。



第１１回「卒業後の自分を考える連続自主講座」『第4回世界に羽ばたく医師シリーズ』を開催しました。

2018年8月10日

2018年6月24日（日）滋賀医科大学構内にて、臨床留学のバイブル的存在である『海外医学留学のすべて』(日本医事新報社)など多数出版されている島田悠一先生（コロンビア大学医学部助教、循環器内科臨床指導医、肥大型心筋症センター研究主任)をお招きし、特別講演を行いました。米国医学の現状や日米の研修制度の違い、医師の働き方をについてご講演いただき、さらに英語圏出身の模擬患者さんのご協力のもと、学生対象に英語での医療面接実習を行っていただきました。約20名の参加があり、大変盛り上がりました。

里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ（懇談会）を行いました

2018年6月19日

6月11日（月）の昼休みに、里親登録学生18名（新登録学生11名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、CMC（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

近江八幡・沖島方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2018年5月29日

3月14日（水）・15日（木）に、近江八幡・沖島方面を訪問させていただいた春の宿泊研修には、学生20名（滋賀医科大学医学科第1～4学年11名、看護学科第2～3学年8名・旭川医科大学医学科3年1名）が参加しました。

【1日目】

・沖島への訪問

琵琶湖最大の島で、日本で唯一、淡水湖に浮かび、人が暮らしている沖島を訪問し、沖島の自然と文化、医療体制等を見学しました。

まずは、漁港近くに停泊している消防艇を見学後、消防団の廣田さんから急病人の救急搬送についてお話いただきました。

高齢化が進む250名の島民の方々の健康維持のために、コミュニティセンター内の診療所（週に1回開所）を拠点とし、2年前から平日は島に常駐勤務されている近江八幡市健康推進課の中嶋看護師から、日々の活動についてお話を聞きました。

続いて、西福寺の茶谷住職に島内を案内していただき、お寺で島の歴史をお話いただきました。
昼食では、島の特産品を使ったお弁当をいただいた後、島を後にしました。

・近江八幡市立総合医療センター

宮下院長から病院概要について説明を受けた後、開院後10年以上が経過しているとは思えないほどきれいで清掃の行き届いた院内を見学させていただきました

第1部では、近江八幡市長寿福祉課　社会福祉士　山岡昌代氏から「在宅医療の現状と課題　～多職種連携の現場から」、ヴォーリズ記念病院　三ッ浪健一先生から「地域包括ケアと在宅医療支援病院について」ご講演いただきました。
交流会2部では、訪問先の関係者の方々や行政の方々にご参加いただき貴重な意見交換、懇談の場となりました。

【2日目】

・近江八幡市内の散策

八幡山のふもとに建つラコリーナ近江八幡、時代劇のロケ地としてお馴染みの八幡堀、日牟禮八幡宮、市内に点在するヴォ―リス建築の数々を、ボランティアガイドに説明していただきながら散策しました。

・ヴォーリズ記念病院

周防院長と澤谷副理事より、病院概要について説明を受けました。続いて、ホスピス希望館の高橋医師から学生へ、患者の辛さを想像し共感する力、今を精一杯生きる大切さについて

今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

（この研修は、NPO滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

里親学生支援事業としての7回目の卒業生を送り出しました

2018年5月29日

平成30年3月9日（金）に平成29年度滋賀医科大学卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、7回目の卒業生（医学科8名、看護学科3名）を送り出しました。

学生達が、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。

2月8日開催「里親・プチ里親」対象FD研修会・意見交換会

2018年5月29日

研修会では、滋賀医科大学臨床教育講座　辻 喜久准教授から「医学教育分野別評価を受審して」と題して、昨年11月に受審した、日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価の報告と、滋賀医科大学の対応について講演いただきました。

引き続き和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。

滋賀医科大学地域里親支援事業として、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年１回開催しています。

第10回「卒業後の自分を考える連続自主講座」『地域医療が面白い－ボクがこの道を選んだ理由－』を開催しました。

2018年5月29日

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援する「卒業後の自分を考える」連続自主講座を、11月28日（火）滋賀医科大学小教室において開催しました。

今回の講師には、滋賀県で地域医療に携わる、切手俊弘先生（彦根市立病院）と中村琢弥先生（弓削メディカルクリニック）をお迎えし、学生時代から現在までの歩み、仕事のやりがいなどをお話しいただきました。

17名の参加者からは、「視野が広がったと感じる」「有意義な時間になった」などの声がありました。また、多くの質問があり、関心の高さがうかがえました。

勉強会を立ち上げ、毎月開催しました。これは現在も続いており、今でも年1回は出席しています。

10年勤めた母校の医局を辞め、岡山の診療所で働くことになりました。ここでは外来（内科）・検査（内視鏡）・透析・訪問診療をしました。外科から内科に転身し、訪問診療を学びました。在宅の褥瘡（床ずれ）について考え、日本褥瘡学会在宅ケア推進協会の活動をしました。

その後ご縁があり、滋賀県の彦根市立病院で、再度外科医として働くことになりました（外来・手術・救急対応）。院長から在宅医療の提案をうけ、在宅医療支援室を新設。現在は医師として行政にも携わっています。医療・介護連携フォーラムや多職種の研究会、褥瘡学会の開催など、興味はつきません。滋賀は地域で活性化しようとする、素晴らしい場所だと感じています。

最後に学生さんへ。どの道へ行っても、いろいろなことができます。今、これをやろうと決めることは素晴らしい。ですが途中で方向が変わっていくことも人生。人とのご縁を大事にしてください。

「　中村　琢弥　先生（弓削メディカルクリニック 滋賀家庭医療学センター　教育部門担当指導医・診療部門長）　」

滋賀医大医学科27期生で、卒業後10年がたちました。診療所のお医者さんに憧れていましたが、卒業後スムーズに診療所医師になるためのキャリアパスはありませんでした。

尊敬する先生からファミリーメディスン（家庭医療）の領域が自分の理想の医師像に近いことを聞き、家庭医療学に触れられる京都民医連中央病院を初期研修に選びました。後期研修は京都家庭医療学センターでトレーニングを積み、家庭医療専門医を取得しました。その後、北海道家庭医療学センターに所属し、2年間更別村国民健康保険診療所の副所長として勤務。指導医の資格を取得しました。

現在は、滋賀に戻り竜王町にある弓削メディカルクリニックで勤務しています。家庭医・総合診療医として臨床と、教育、経営マネージメントを三等分したような形で仕事をしています。在宅関係の執筆活動もしています。

働きながらさらに勉強したいと思い、今年の春Johns Hopkins University公衆衛生大学院修士課程に入学しました。年に1週間のスクーリング以外完全オンラインで学習中です。課題も多く大変ですが、充実した自己成長の日々です。

WONCA

～～～

A　学生最大の強みは時間。いろんなチャレンジができる。社会勉強、語学、IT、、、どんなことでも一生懸命した経験は絶対役に立つ。（中村先生）

滋賀医科大学学園祭『若鮎祭』において、里親学生支援室の活動内容等を展示しました。

2018年5月28日

滋賀医科大学学園祭（第43回若鮎祭）が10月28日（土）～29日（日）に開催され、里親学生支援室ではNPO滋賀医療人育成協力機構との合同ブースを設けました。

ブースでは、宿泊研修や卒業後の自分を考える連続自主講座を中心としたポスターの掲示等を行いました。

また、機構広報誌「めでる」等の発行物を設置し、里親学生支援事業の取り組みを広くPRするよう努めました。

ブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

大津・湖南地域の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2018年5月28日

8月22日（火）・23日（水）に行いました大津・湖南地域への夏の宿泊研修には、滋賀医科大学学生13名（医学科1～4年7名、看護学科2～4年6名）が参加しました。

8月22日（火）一日目

2、済生会滋賀県病院と草津総合病院

湖南地域の中核病院である済生会滋賀県病院と草津総合病院を、バスの車窓から見学しました。

3、滋賀県庁

健康医療福祉分野において滋賀県民が心身ともに健康な生活がおくれるように、また病院、医師研修医のサポートをしていただいている滋賀県庁健康医療福祉部を訪れ説明を聞くとともに、県庁内を見学させていただきました。とくに、初めて県議会がおこなわれる会議場に入れていただいた学生達の目は輝いていました。

4、三井寺と大津歴史博物館

大津市の中心街にある三井寺の境内を散策ののち、隣接する大津歴史博物館を訪れました。

昔から交通の要地であったことから発達していった大津地域の歴史と文化の足跡を、写真や資料により知ることができました。

8月23日（水）二日目

1、比叡山

　宿泊先の近江勧学館を徒歩で出発し、京阪電車、坂本ケーブルを乗り継ぎ比叡山に登りました。

東塔では根本中堂、阿弥陀堂等を見学し、横川にある滋賀医科大学慰霊墓地にお参りしました。

横川駐車から大学慰霊墓地までの所要時間は徒歩で約30分ですが、思っていたほど暑くもなく、

下界の琵琶湖を眺めながら、のんびりと歩けました。

2、大津赤十字病院

大津赤十字病院を訪問し病院の概要と、災害拠点病院としての役割について説明後、東日本大震災時の石巻赤十字病院の活動記録ビデオを見せていただいた後、病院見学をさせて

（この研修は、NPO滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

第9回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

2017年7月 7日

６月２日（金）１８時から、本学教職員ロビーにおいて、第９回「卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

講師に、木築野百合医師（きづきクリニック院長・医学科5期生）、石原仁看護師（栗東市訪問看護ステーション）、大黒典子看護師（訪問看護ステーションさと信楽サテライト）、林みさ子看護師（湖南市立石部医療センター）をお迎えし、「仕事・家庭・子育て　私のワークライフバランス」のテーマで講演をしていただきました。

木築医師は、研修医時代から外科病棟で共に勤務していた看護師さん方との絆が強く、お互いに助け合いながら人生を歩んでこられた体験談を明るく語られ、参加した学生に将来への力強いエールを送っていただきました。

講座終了後、講師の皆様が楽しそうに瀬田駅方面に食事に行かれる様子に、仕事や子育てを助け合いながら過ごしてきた繋がりのすばらしさを感じました。

学生達のためにご多忙の中、時間を割いていただいた講師の皆様有難うございました。

里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ（懇談会）を行いました

2017年6月14日

彦根市・米原市方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2017年4月27日

3月23日（木）・24日（金）に、彦根市・米原市方面を訪問させていただいた春の宿泊研修には、学生9名（医学科1～4年5名、看護学科1～3年4名）が参加しました。

23日（木）1日目

滋賀医科大学を出発し、今回の研修地である彦根市へ向いました。

1. 彦根市地域見学（彦根城、彦根城博物館など）

いろは松の近くの駐車場から15分ほど歩き、複数あるやぐらをくぐり抜けて彦根城のシンボルである天守へ向かいました。天守の前の広場には、梅の木がきれいに花を咲かせていました。天守をバックに記念撮影の後、それぞれ思い思いに城内の庭園や博物館などを見学しました。

3. 友仁山崎病院　彦根市の南側に位置し、南彦根駅近くにある友仁山崎病院を訪問しました。馬場事業統括管理者からのご挨拶の後、髙橋院長から病院の特徴や地域医療についてのお話、医療人として学生時代に身につけて欲しいことなどのお話をいただきました。その後、中岡事務長の案内で、病院内の施設見学、関連施設である介護老人保健施設などを見学させていただきました。

4. 交流会

夕方は、宿泊先のグランドデュークホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会1部では、平尾米原市長から歓迎のご挨拶をいただいた後、米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」の今井認知症ケア上級専門士から、「地域包括支援センターの役割と認知症初期集中支援チームの活動」と題して、具体的なチームの活動内容についてご講演いただきました。その後、「ふくしあ」センター長の中村先生より「全世代型地域包括ケアへの挑戦」と題して、実際の「ふくしあ」での活動についてご講演いただきました。質疑応答では、学生からたくさんの質問がありました。

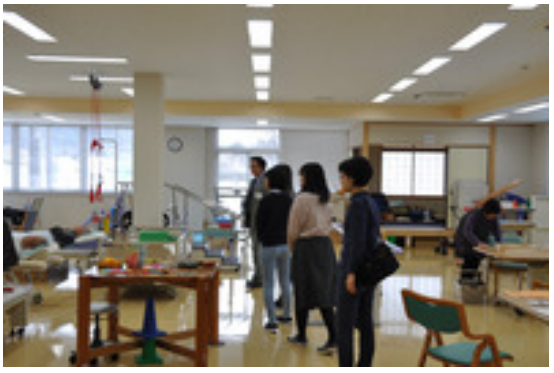
交流会2部においては、訪問先の関係者の方々や里親、プチ里親の皆様にご参加いただ

1. 地域見学（龍潭寺）

佐和山の山麓にある井伊家ゆかりの龍潭寺を訪問しました。お寺には、きれいに整えられたいくつかの庭園があり、ご住職が丁寧にお寺や庭園の由来について説明くださいました。

2.　米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」

地域見学後、米原市米原・近江地域の地域包括ケアの拠点となる米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」を訪問しました。センターでは、服部事務部長から在宅医療支援の拠点となる診療所と病児・病後児保育室の「医療センター」と「児童発達支援センター」の2つの機能を併せ持つ「ふくしあ」の概要や米原市の地域包括ケアの取り組みの歴史とこれからの構想についてのお話がありました。その後、2班に分かれて、施設内をゆっくりと見学させていただきました。施設内には、研修医などの長期研修の受け入れができる施設なども設けてあり、地域医療を担う医療人育成の手厚さを感じました。



3. 地域包括ケアセンターいぶき、野一色サロン

昼食後は、米原市の山東・伊吹地域の地域包括ケアの拠点となる地域包括ケアセンターい

今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学び多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

（この研修は、NPO法人滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

平成２８年度　FD（教育技能）研修会・意見交換会を開催しました

2016年12月27日

12月13日（火）アーバンホテル南草津において「地域里親学生支援」の事業の一環である「ＦＤ研修会・意見交換会」開催しました。

第8回「卒業後の自分を考える」連続自主講座「災害と救急医療～救命のために～」を開催しました

2016年12月 2日

第8回「卒業後の自分を考える」連続自主講座『災害と救急医療～救命のために～』を開催しました。

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援する「卒業後の自分を考える」連続自主講座を、11月4日にクリエイティブモチベーションセンターにおいて開催しました。

今回の講師には、江口　豊教授（滋賀医科大学救急集中治療医学講座、滋賀医科大学医学科2期生)、田畑　貴久講師（滋賀医科大学救急集中治療医療学講座、滋賀医科大学医学科13期生）、飯島　圭主任（滋賀医科大学施設課電気係）、武村　佳奈子副看護師長（滋賀医科大学医学部附属病院　看護部（2C））をお迎えし、お話を聞かせていただきました。

「世界標準治療を超えて」

江口　豊先生からは、2010年に心肺蘇生法の国際ガイドラインが改定され、心肺停止患者に対する人工心肺装置の活用、緊急冠動脈形成術や脳低温療法の施行が社会復帰に繋がると示唆されました。

「災害への備え～災害の現場から～」

　田畑　貴久　先生からは、外科医として診療を行っていたのですが、外科診療で扱う外傷の手術・処置の方が自分には合っていると思い、救急集中治療の道に進むようになりました、とのことでした。

　医大で日常勤務をしながら、滋賀医科大学DMAT隊員として活動しています。災害現場で、DMATとして活動できる環境を整備したり、大学内で災害医療に対応できる人材の育成・体制の構築に努めています。

「チーム医療の要～メディカルスタッフの立場から～」

　飯島　圭　氏からは、平時は滋賀医科大学施設課電気係員として勤務されていますが、災害時「滋賀医科大学DMAT」への出動命令が出た際には、業務調整員として災害地に赴き活動されている様子をDVDにまとめお話いただきました。

　武村　佳奈子看護師からは、現在は2C病棟に勤務していますが、就職当初の勤務はICUで5年間お世話になりました。そこで江口先生に出会い、救急医療に興味を持ち2009年には「救急看護認定看護師」になり、現在は大学院で学んでいます。

　現在「滋賀医科大学DMAT」には、医師6名、看護師11名、業務調整員4名の隊員がおり、災害時には1チーム5名で活動します。東日本大震災では、花巻空港のSCUでトリアージ、応急処置などの活動をしました、とのお話がありました。

最後に学生さんから色々な質問があり丁寧に回答いただいた中、特に印象に残ったのは、

【参加学生の声】

・攻める医者、守る医者というのが印象に残りました。どちらかというと守る医者の方に逃げたいと思ってしまうのですが、江口先生のお話を聞いて、攻める姿勢も大切なのだなと感じました。

災害医療の携わる人に、業務調整員という職種があることは知っていたのですが、話を直接聞くことができて、イメージとしてはっきりしたものになりました。

滋賀医大の救急について以前よりも知ることができました。

・私にとってガイドラインは暗記して実行するものでした。今日のお話の中のガイドラインを作る側に自分がなる、という言葉には目からうろこが落ちました。

施設課の方が、医師や看護師と一緒にお仕事をしている姿に新鮮な感じがしました。

・私は医学科1回生で、卒業後どのような医療活動に従事するかまだ具体的に決まっていなかったが、実際に災害現場で医療活動に従事している医師や看護師、業務調整員の生の声を聴くことで、災害医療に対する関心が深まり、将来災害医療に従事することを視野に入れる良い機会となったと思う。

また、災害医療は平常よりも、様々な職種の方々と連携が求められ、また業務調整員の方たちの支えが、円滑に医療行為をするにあたって非常に大切であるということを学んだ。

最後に、質疑応答があったが、その中で江口先生をはじめとして激励のお言葉があり、感銘を受けた。人生の先輩方からのアドバイスを忘れず、これからの学生生活を有意義に過ごしていきたい。

・講師の先生方の能動的に医療に関わっておられる姿勢をお話し頂いて、日頃授業を受けてそのままで終わっていないか、受動的になっていないか、と反省する機会になりました。日々の授業も情報量が膨大ではありますが、先生方も仰っていたように、何が役に立つかは必要になるまで分からないので、試験にとらわれず学んでゆきたいと思います。

・普段は一方的にお話を聞いている先生方と近い距離で、個人的なお話も交えて会話できた

組みを広く知っていただけるようPRに努めました。

当日は、たくさんの方にご来場いただきました。

リレー・フォー・ライフ・ジャパンでの様子

学園祭での様子

ブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

甲賀市・湖南市方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2016年9月23日

8月24日（水）・25日（木）に、甲賀市・湖南市方面を訪問させていただいた夏の宿泊研修には、里親登録学生16名（医学科1～4年生8名、看護学科1～3年生8名）が参加しました。

24日（水）1日目

滋賀医科大学を出発し、ためきの置物で有名な焼物の里、甲賀市信楽町へ向かい、一部

2. 国立病院機構紫香楽病院訪問

医学生1名、看護学生2名で訪問させていただきました。鳴戸副院長から紫香楽病院の医療の状況・特徴について、松浦看護部長から看護の特徴について説明を伺った後、各病棟を見学させていただき、重症心身障害児（者）の診療の特徴やコミュニケーションの方法についてもご説明いただきながら、それぞれの場面を見学させていただきました。最後に、大野院長からお話をいただき、紫香楽病院での医療活動のやりがいなどについても伺うことができました。

学生は2班に分かれて、甲南病院、水口病院を訪問しました。

4.　甲南病院訪問

甲賀市甲南町の甲南病院には、医学生・看護学生6名が訪問させていただきました。

古倉理事長をはじめ、多数の医療関係者の出迎えを受け、病院の歴史や特徴を伺いました。先進の医療とともに在宅支援体制の強化に取り組んでおられ、地域の特色を知ることが大切、とのお話が印象的でした。

その後、明るい雰囲気の院内を見学させていただき、比叡山のご住職による院内法話会の開催等、患者様、地域の方の心と体の健康を守るため職員一丸となっておられる様子を感じました。見学後の懇談では、学生一人一人の感想や質問に、丁寧に答えていただきました。

湖東、湖南・甲賀地域の精神科医療を担う精神科（単科）の病院である水口病院には、医学生・看護学生10名が訪問させていただきました。

與那城看護部長から水口病院の概要についてご説明をいただいた後、医学生、看護学生別に、院内を見学させていただきました。診察室での注意点や工夫された病棟の様子なども見せていただくことができました。その後、医師や看護師の方を交えて質疑応答がされ、学生からもたくさんの質問がありました。最後に、青木院長から学生に向けて人と向き合うことの大切さ、人との縁について、力強いメッセージをいただきました。

6. 交流会

夕方は、宿泊先のホテルサンクレストにおいて交流会を開催しました。

交流会1部では、『「信楽中央病院」の信楽地域における医療活動について』として甲賀市立信楽中央病院長　中島恭二氏から地域医療に必要な医師像も交えてご講演いただきました。また、甲賀市健康福祉部健康推進課長　西田　薫保健師から『甲賀市の地域医療・保健・福祉について』として具体的な統計をもとに甲賀市の特徴や施策についてご講演いただきました。学生からもたくさんの質問がありました。

交流会2部では、訪問先の関係者の方々、地域の方々、里親の先生にご参加いただき、和やかな意見交換、懇談の場となりました。

25日（木）2日目

1. 地域見学（善水寺、甲賀流忍術屋敷）

　湖南市岩根にある湖東三山のひとつ国宝「善水寺」を訪問しました。ご住職から寺の由来などを聞き、本堂内を見学させていただきました。

その後、甲賀市甲南町にある甲賀流忍者　甲賀五十三家筆頭格甲賀望月氏本家の旧邸を見学し、忍者屋敷のからくりなど説明をうけ、実際に体験することもできました。

3. 医療生協こうせい駅前診療所訪問

湖南市甲西町にある医療生協こうせい駅前診療所では、佐々木所長から「健康とは何か？」をキーワードに、①健康をサポートする外来診療・訪問診療、②地域まるごと健康づくり、③信頼、つきあいや交流、社会参加などを通してのソーシャルキャピタルの強化をめざし、2013年に地域の方々と一緒に健康をサポートする診療所を作ったお話をいただきました。また、医療生協の市原さんから、住民・患者としての医療生協との関わりについてお話いただきました。診療所には、組合員さんからの意見を取り入れて作られた待合室の椅子、喫茶コーナーやサークル活動のできるホールなどもあり、アットホームな雰囲気を感じながら見学をさせていただきました。

里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ（懇談会）を行いました

2016年6月28日

6月13日（月）の昼休みに、里親登録学生23名（新登録学生17名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、CMC（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

初めに室員や事務スタッフ、学生の自己紹介が行われました。その後、垰田室長から里親学生支援事業の概要についての話や、今年度の事業計画について具体的な説明がありました。また、夏期休暇中に実施する甲賀市・湖南市方面での宿泊研修について、訪問先の紹介があり、学生の意見を参考に検討することとなりました。

先輩学生からは、「宿泊研修では、参加するたびに、違った感動や発見があり勉強になる」「たくさんの新入生が入ってきてうれしく思う。研修などに参加する中で、たくさん話ができればうれしい」などの意見がありました。

東近江市・日野町方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2016年4月19日

3月24日（木）・25日（金）に、東近江市・日野町方面を訪問させていただいた平成27年度春の宿泊研修には、里親登録学生を含む本学学生13名（1～3年生）と卒業後は東近江市内の病院で勤務する予定の看護学校専門学校生2名と准看護専門学校生1名が参加されました。

今回参加された学生は、一度社会人として働いた経験を持つ方が多く、その分地域医療に興味があって、学びの多い研修になったようです。

24日（木）1日目

滋賀医科大学を出発し、里親の事業での宿泊研修が始まって以来、初めての訪問先とな

②日野記念病院訪問

　日野町の中核病院である日野記念病院を訪問させていただきました。

　花澤院長の案内で院内の各所や、隣接する特別養護老人ホームを見学させていただきました。その後、地域における日野記念病院の概要等についてお話をきかせていただきました。

④交流会

夕方は、宿泊先の八日市ロイヤルホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会第1部では、「三方よし研究会について学ぶ」として三方よし研究会代表　小串輝男氏から研究会の地域での役割等について動画を交えた資料を用いて解説を受けました。また、丸山薬局　大石和美薬剤師からは、子三方よしチーム永源寺での薬剤師としてのご自身の活動を中心にご講演いただきました。

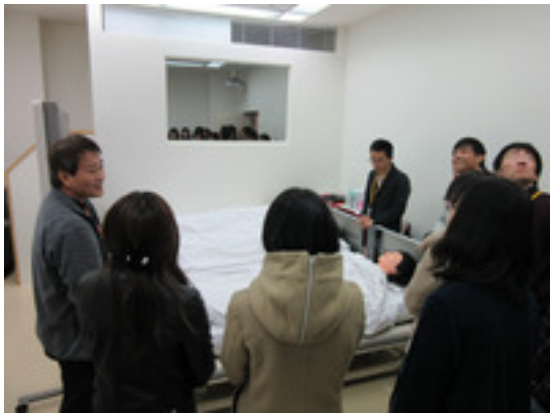
交流会第2部では、東近江地域で三方よし研究会に深く関わって活動されている方々、訪問先関係者や里親の方にも参加いただき、和やかな雰囲気の中、意見交換や懇談が行われました。

山が白く色づき朝から小雪が舞う中、永源寺へ向いました。

永源寺では、地元ボランティアの方の説明を聞きながら梅の香の漂う境内を散策し、世界凧博物館では東近江大凧の歴史についての説明をきき、実物の100畳大凧や世界の凧の展示を見学しました。

①東近江総合医療センター訪問

午後からは、東近江方面の中核病院であり滋賀医科大学の研修施設でもある、東近江総合医療センターを訪問しました。辻川副院長から東近江市の医療の実情や地域の病院で働くことについてのお話を伺った後、スキルスラボ研修施設において、胃カメラの操作や縫合等の体験させていただきました。



今回も、地域の

方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学び多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

（この研修は、NPO法人滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

学内教職員向けFD・SD研修会を開催しました

2016年3月11日

「医学教育における『態度教育』」

日時：平成28年3月2日（水）午後5時30分～午後7時00分

講師：岐阜大学　医学教育開発研究センター　センター長　藤崎　和彦　先生

会場：看護第1講義室（看護学科棟1階）

医学教育の専門家であり岐阜大学医学教育開発研究センター長として活躍されておられる、藤崎　和彦先生をお招きし、里親学生支援室と認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構との共催でFD・SD研修会を行いました。

藤崎先生からは、アウトカム基盤型教育に基づいて取り組まれている岐阜大学医学部での態度教育の方法等について具体的にご講演をいただき、その後、質疑応答を含めた意見交換が行われました。

１月１３日に第７回「卒業後の自分を考える」連続自主講座を開催しました

2016年2月17日

小児科領域のお話を聞きたいという要望により、１月１３日にクリエイティブモチベーションセンターにおいて講師に、阪上　由子医師（滋賀医科大学小児発達支援学講座・特任助教、滋賀医科大医学科19期生)、中村　美智 看護師（滋賀医科大学医学部附属病院看護部NICU/GCU　6年目看護師、滋賀県立総合保健専門学校卒業）、西澤　嘉四郎医師（近江八幡市立総合医療センター副院長、滋賀医科大学医学科3期生）をお迎えし、お話を聞かせていただきました。

阪上由子先生からは、子どもたちの命と健康を支える「メンタルヘルス」を中心にお話いただきました。

・我が国の児童・思春期をめぐる精神保健の歴史は、戦後の戦災孤児の養護から始まり、発達障害、虐待へとトピックスが変化していて、発達外来の診察では、虐待症例などの事例検討会等、関係機関との連携を要するケースが年々増えています。

・小児科では「成長+発達＝発育」という視点で子どもの発育を評価していますが、神経発達障害（Neurodevelopmental disorder）の多くは学童期以前に出現し、通常の発達と異なり、社会性・対人相互交流性コミュニケーションの課題をもつASD（自閉症スペクトラム障害）、不注意や多動衝動性が顕著なADHD（注意欠如多動性障害）、読み・書き・計算などの学習スキルに課題をもつLD（学習障害）などが含まれます。神経発達障害の診療においては、福祉や教育との連携が重要で、地域においては発達支援センターなどが中核となり、切れ目なく支援を継続する体制が作られつつあります。また、虐待の予防については妊娠早期からの母体のメンタルヘルスのマネジメントが重要であることが明らかになってきました。出産後に保護者の抱える「養育困難」をどうサポートしていくかが今後の課題です。

・滋賀県立総合保健専門学校卒業後、滋賀医科大学医学部附属病院に就職し、産婦人科病棟での勤務を希望されましたが、NICU（新生児特定集中治療室)・GCU（成長促進室）病棟の勤務となりました。

・当初は、赤ちゃんの小さいことにびっくりし、聞いたこともない疾患や慣れない看護技術に戸惑い、こんな特殊な部署で看護師として働けるかな？と思いましたが、勤務も6年目となります。

・ケアが予後に影響するので、赤ちゃんが出す小さなサインも見逃せず、勤務中は、常に緊張との戦いですが、小さく産まれた赤ちゃんが、日々成長していく姿や両親の笑顔が励みとなり、ここで看護師をしていて良かったと思います。

NICU・GUC病棟の看護師は、赤ちゃんの看護だけでなく、赤ちゃんのご両親の心のケアや、赤ちゃんの退院に向けての育児指導などご家族との関わりも大切とおっしゃっておられました。

　西澤嘉四郎先生からは、小児科医の現状と小児医療供給体制についてお話いただきました。

・小児科は、15歳以下の小児を対象とする診療科ですが、子供を診るだけでなく親も診る診療科です。

・現在、小児科医の高齢化が問題です。

・皮膚科、眼科、小児科では、医師の3割以上が女性医師です。

・滋賀県内の周産期医療体制の充実を図っているので、新生児の死亡は少なくなっています。

・小児救急医療は、新臨床研修制度（2004年）頃より病院で標ぼうしている小児科数が減少し小児科救急医療が難しいなか、小児科救急に関する課題を検討し小児科医療提供体制の構想を進めています。

・高度先進医療、臨床研究の推進に伴い、様々な新しい治療方法の開発が進められています。

・医療技術の進歩によって在宅での医療支援が必要な子どもや長期生存が可能となった難

学生との懇談時に「学生が卒業までにやっておくべき事は、何ですか？」と質問した答えは、3先生とも「コミュニケーション能力を高めておくこと」でした。

【参加学生の声】

○滋賀県の地域医療体制の話が興味深かった。

○小児科から内科への引継ぎの難しさについてもう少し聞いてみたかった。

○NICUの赤ちゃんの小ささに驚きました。なるべく赤ちゃんは助けたい気持ちになります。しかし、助けると医療費がかかるという話も聞いたことがあり、どうすることが正解なのか・・・。

○これまで何となく小児科に行きたいと考えていただけで、小児科がどのような勤務状況なのかといった具体的な内容を知らなかったので、そういった話を聞くことができて良かったです。また、NICUについてもどのようなものか知らなかったので、考えたことがなかったですが、少し興味を持つことができました。 今後も様々な自主講座に参加し、視野をひろげて、自分に本当に合った科はどこなのか考えていきたいと思います。

○とてもインフォーマティブな内容で勉強になった。小児科がいかにジェネラルな科であるかがよくわかった。少子化と小児科の関わりについても聞きたかった。

○小児科医は、子どもだけでなく、家族（親）までしっかりみて支えていくことが求められるのだということがよく分かりました。また、患者さん及びその家族を支えるのには、いろいろな職種の協力が欠かせないのも再確認しました。やっぱり大切なのはコミュニケーション力なのですね。

○大変勉強になりました。特に阪上先生のご専門は興味を持っている分野でもあり、女性医師ならではの難しさについてもうかがうことができ嬉しかったです。

○小児科でみた患者さんを大人になってからもみていくのは大変だなと思いました。小児が専門なのに成人患者を診察するのは矛盾しているなと感じました。

○こじんまりとした会で、現場でご活躍されている現役の先生方のお話を伺うことができ、自分の将来を考えるすごく貴重な経験になりました。ぜひまた参加させていただきたいです。

○講座どうもありがとうございます。現役医療において、社会面や医学面などの小児科という分野を知ることができてとてもよかったです。

今回の研修会では、医療情報部　永田　啓教授から「変わる医学教育」と題して、講演いただきました。

講演では、国際基準に対応した医学教育のあり方について医学教育分野別評価基準に基づき話があり、参加された方々からも活発な意見が出されました。

引き続き和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。昨年に引き続きペアで参加された里親・里子の姿もあり、より一層交流ができる良い機会となったようです。

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

野村　哲哉　先生(南草津野村病院理事長・滋賀医大卒業2期生)

　学生時代は心臓外科を目指していましたが、滋賀県では多くの心臓外科医を必要としないが産婦人科医は必要だったので、外科的なこともできると考え産婦人科医になりました。それでよかったと思っています。

　県内に二つの産婦人科病院と助産院を経営し、今までに25000名の赤ちゃんを取り上げました。

　今もって産婦人科医のみならず助産師も不足しているのが滋賀県の現状です。

池川　貴子　先生（滋賀医科大学医師臨床教育センター2年目研修医・滋賀医大卒業34期生）

　学生時代から産婦人科医になりたいと思い、里親支援制度で野村先生に里親になっていただきました。大学卒業後は出身地の神戸に帰るつもりでしたが、野村先生や村上先生に滋賀や滋賀医大の先生方の魅力を改めて伺い、滋賀医科大学に留まる決意をしました。

産婦人科の魅力は、「生まれる」瞬間、助けられるのは2人（母親と子供）であること、多くの治療法・手技があり、患者さんへの対応がそれぞれに違うことです。また、ロールモデルとなる女性医師が多くいることも魅力のひとつです。

　大学病院の魅力は、先生方が熱心で優しい方が多く、多種多様な症例があり、周産期・婦人科腫瘍・不妊など多岐に渡って学べる環境に恵まれているということです。また、夜間も次の日を気にすることなくしっかり働けるよう「副直明け休み制度」も調えられており、働く環境にも恵まれています。

村上　節　先生（滋賀医科大学産科学婦人科学講座教授）

　精子と卵子の天文学的数字の割合で私たち一人ひとりが生まれてくることは奇跡です。

　がん治療を行うと女性は閉経が早まり、子どもを持つ機会が奪われますが、現在では卵子を凍結でき、閉経後も子どもを持つことができるようになりました。この生殖医療情報は、医師のみならず、助産師、看護師、事務職員なども知っておかなければならないし、患者に提供する必要があります。滋賀医科大学では、滋賀がん・生殖医療ネットワークを構築し発信しています。

お話の後、学生からの質問に各先生が丁寧にお答えいただき、次の話が印象に残りました。

・お産の基本は、通常分娩です。お産にリスクの「有る」も「無い」もなく全て同じです。

・臆病で心配があれば医師にすぐに報告してくれるような助産師になってほしいです。

・産婦人科医はハードワークと思われていますが、現在60歳の野村先生は、患者さんが来てくれるうちは花であると思い、仕事のオン、オフを切り替え、どこででも眠れるように心がけておられます。

　また、村上教授は、大学病院は地域の病院と違って、一人の患者さんを固定医師で受けもたず医師チームで受け持つことや、副直明け休み制度等を取り入れる等して、負担の軽減に努めておられます。

・どの先生も患者さんとの心温まるふれあいに一番感動したと、語っていただきました。

　医療現場で勤務されている看護師の方々からの声も聞け、参加された学生・一般市民の方は大変有意義な時を持つことができました。

・妊娠・分娩・産後とつながっているが、ひとつひとつの経過が奇跡なのだと改めて感じました。患者さんが中心にあり、患者さんにとっての良いお産を手助けできる助産師になりたいと私も思います。
・感動しました！出産ってキセキ！
・産婦人科の先生方のやりがいを聞けて刺激になりました。これからの医学の勉強が非常に楽しみになりました。
・違った立場にいる4人の先生方からお話を聞くことができて、とても参考になりました。ドラマでコウノドリを見ていますが、現場で直接働いていらっしゃる人の言葉はドラマよりもずっと感動的で「奇跡のすぐそばにいる」ということがひしひしと伝わってきました。また、いつもと違ってたくさんのスタッフの方がいらっしゃって、質疑応答において、様々な意見を聞くことができて良かったです。
・産婦人科は「助けるのが１人じゃなくて２人！」という言葉が印象に残りました。
・将来助産師を目指しています。今日のお話を聞いて、妊娠するということがまず“奇跡”で、そして生まれてくるということも奇跡なんだと思いました。人が誕生する瞬間に立ち会うことが出来るというのはすごく感動的だし、その産まれた子どもが大きくなってまた自分がお産をとらせてもらえることもあって、女性の一生に携わることが出来る仕事って良いなと思いました。
これから、母性の実習や助産実習があり、大変なこともたくさんあると思いますが、今日の話を聞いて楽しみにもなりました。
・「いいお産」というものが、必ずしも赤ちゃんの健康だけを意味しないということが心に残りました。
私は進路について、助産師を検討していますが、実際にゆきちゃんのような子のケースを扱うとしたら、どんな風に向きあえるのか、ご家族にどんな声をかけていいか戸惑うと思います。まだ少し時間があるので、後悔のない進路選択をしたいです。
・普段なかなか聞けない、本当にリアルな部分をきけて、とても良かったです。
質問しようと思っていたことを話してくださって、聞いていて楽しかったです。
また、ベテランの先生から若手の先生まで、幅広い年代の方の話をきけて、色々な考えなどを知れて良かったです。
・ゆきちゃんの話では涙が出そうになりました。ゆきちゃんのお母さんが亡くなったゆきちゃんをお風呂に入れてあげ、お父さんが上手に抱き上げた、というところに涙が出そうになりました。
今日の講座を聴いて、出産は本当に「奇跡」だと思いました。
産科の現場での実際のお話がとても興味深かったです。ありがとうございました。
・助産師の学生です。
将来は産婦人科領域に就職しようと思っているのですが、滋賀医大で働いておられる助産師さんのお話を聞けて、とても良い機会になりました！滋賀県で働きたい思いが強くなりました。
・非常に有意義な時間を過ごさせて頂きました。産科医療の現場に携わる方々からのお話を医師からだけでなく助産師の方々の立場から伺うことができ、来てよかったと思いました。
産婦人科医が働く上での配慮があることがわかり、とても安心しました。
実際に産婦人科医療に携わっている方のお話を聞くことができ、刺激になりました。
・産科領域全体のお話を聞くことが出来良かったです。
現在の産科医療、生殖医療の進歩等、臨床の実態を知ることができたのは良い機会でした。

ブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

湖西地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2015年9月 9日

8月24日（月）・25日（火）に、湖西地域方面（高島市）を訪問させていただいた平成27年度夏の宿泊研修には、里親登録学生を含む本学学生15名（医学科14名、看護学科1名）と自治医科大学生1名が参加されました。

24日（月）1日目

滋賀医科大学を出発し、浜大津港近くの大津赤十字病院を左手に見ながら約40キロメートルの道のりを経て、今回の研修の地である高島市内へ向かいました。

① NPO法人元気な仲間訪問

平成27年4月1日にオープンされた、真新しい小規模多機能型居宅介護施設の見学をさせていただきました。

その後場所を変え、NPO法人元気な仲間理事長　谷仙一郎氏から、法人設立の経緯と、高齢化率31.7%の高島市で、行政に任せるばかりではなく、住民同士が支え合い、援助できる人（まかせて会員）と援助を求める人（よろしく会員）という形で、生活での困りごとを会員同士が助け合う相互扶助の取り組みについてお話をいただきました。

③ 高島市民病院訪問

湖西地域の中核病院である高島市民病院を訪問させていただきました。

髙山病院長から湖西地域における高島市民病院の概要と役割や、2年後には総合診療科を開設する将来への展望についてお話をいただきました。

その後、院内救急施設、ヘリポートや病棟、また地下にある免震設備などを見学させていただきました。

④ 交流会

夕方は、宿泊先の今津サンブリッジホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会第1部では、高島市健康福祉部健康推進課　課長　清水　勝徳氏から「高島市の概要と地域医療について」、朽木診療所　所長　倉田　佳彦氏から「地域で学ぶ地域医療～朽木診療所に赴任して～」と題してご講演いただきました。

交流会第2部では、訪問先の関係者の方々や地域の方、里親の方々もご参加いただき、和やかな意見交換、懇談の場となりました。

25日（火）2日目

① 地域見学（朽木渓流魚センター、興聖寺）

あいにくの雨模様の中、朽木渓流魚センターへ向いました。

渓流魚センターは朽木のメインストリートから、脇道を30分ほど入ったところにあります。その先にある高島市民病院平良出張診療所や、その奥の高島市民病院針畑出張診療所への道は、バスでの通行が不可能で、残念ながら訪問することはできませんでしたが、その地域に診察や介護に出向かれる、朽木地域の医療従事者の実情を知る良い機会となりました。

その後、朽木氏の菩提寺である興聖寺を訪問し、住職からお寺の歴史についてのお話を伺いました。

② 高島市国民健康保険朽木診療所訪問

旧朽木村唯一の医療機関である高島市国民健康保険朽木診療所を訪問し、倉田所長の

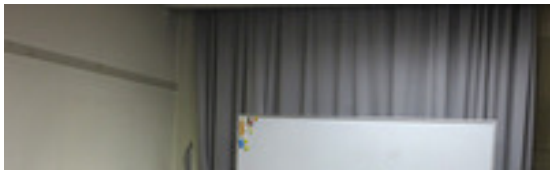
今回も、地域の方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学び多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。
（この研修は、NPO法人滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

7月15日に「第5回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年9月 9日

7月15日（水）午後6時から滋賀医科大学教職員ホールにおいて「第5回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

講師には、角野文彦先生（滋賀県健康医療福祉部 次長、医師・滋賀医科大学医学科6期生、里親）と、糸山めぐみ先生（訪問看護ステーションオリーブ 所長、看護師）をお招きし、滋賀県の保健医療政策に関わっておられる角野先生から、行政医師の仕事とやりがいについて、また、昨年 近江八幡市に訪問看護ステーションオリーブを開設された糸山先生には、在宅医療（高齢者だけでなく精神、障害児者も含めた）における訪問看護師としての苦労とやりがいについてお話をしていただきました。
あいにく試験前のために学生3名の参加となりましたが、両講師を囲んで和気あいあいとした中で、本音を話し合える会となりました。
ご多忙の中、滋賀医科大学までお越しいただきました角野先生、糸山先生有難うございました。



○医学科2年生
　保健所に勤めておられる先生のお話ということで、どのようなことをお話し頂けるのかと期待を持って参加しました。お話し頂いた内容は、まるで戦国時代の軍師のような仕事ばかりで、お話を伺っていて大変面白いものでした。

○看護学科4年生
・イメージしにくい行政における医師の役割がよくわかりました。
・地域の病院再編などにも関わっておられることを、初めて知りました。

里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ（懇談会）を行いました

2015年7月 6日

　6月23日（火）の昼休みに、里親登録学生（新規登録学生5名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、CMC（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。
　まず、初めに垰田室長から里親学生支援事業の概要についての話があり、室員や事務スタッフ、学生の自己紹介が行われました。その後、今年度の事業計画について具体的な説明がありました。学生には、「里親の先生方は、学生からの連絡はうれしく思っているし、気にしてくださっているので、忙しくすぐに返信が無い場合もあるかもしれませんが、一報を入れてください。また、何か希望があれば言って欲しい、研修にはより多くの学生が参加して欲しいので地域医療に興味を持っている友人やクラブの後輩なども誘って参加して欲しい」との呼びかけがありました。

今後の事業予定

1　学生と里親とのマッチング（新入生5名）

2　第5回「卒業後の自分を考える」連続自主講座（7月15日　18時～）

3　夏期宿泊研修　湖西方面（8月24日～25日）

4　里親・プチ里親との研修会・意見交換会（1月）

5　春期宿泊研修　東近江市永源寺・蒲生郡日野町方面（3月）

その他、決定次第、随時メール等で案内します。

3月18日（水）19日（木）に長浜市方面において、認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構と協賛で、平成26年度春の宿泊研修を実施しました。本研修には、里親登録学生を含む本学学生9名（医学科6名、看護学科3名）が参加しました。

18日（水）①長浜市内見学

長浜市の中心部の観光地にある曳山博物館の講堂にて、「滋賀県長浜市の地域医療」として長浜市健康推進課の藤居課長から長浜市の地域医療の現状と課題についてのお話を伺いました。その後、日本三大山車祭の一つで、国の重要無形民俗文化財に指定されている長浜曳山まつりの鉾などが展示されている曳山博物館内を見学し、続いてボランティアガイドの案内で大通寺などを見学しました。

②長浜赤十字病院訪問

午後からは、長浜赤十字病院の訪問させていただきました。楠井副院長から長浜地域における長浜赤十字病院の役割と概要の説明を、中村救急部長から、災害医療について東日本大震災での活動内容をおりまぜながら、DMATや救護班についてのお話をいただきました。その後、ヘリポートや院内救急部を中心とする施設を見学させていただきました。

④交流会

夕方は、宿泊先でもある長浜ロイヤルホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会の第1部では、浅井東診療所　副所長　宮地純一郎氏からは、「○○力のちょっとまじめな話」として次の日に実施する現場見学をいかす3つの方法について、特別養護老人ホームふくら　看護主任　金森暢子氏からは「一人ひとりの　暮らしのカタチ　看取りのカタチ」と題して施設看取りと家庭医との連携についてご講演いただきました。

また、交流会の第2部では、訪問先の関係者の方々や地域の方、里親・プチ里親の方々など総勢14名の方にご参加いただき、各々の立場での地域医療についての役割や思いをお話いただき貴重な意見交換、懇談の場となりました。

19日（木）①浅井東診療所訪問

浅井東診療所では、学生たちは、事前に松井所長から提案されたプランの中から希望した

②地域見学（渡岸寺等）

地域見学では、長浜市高月町の渡岸寺を訪問し、日本全国に7体ある国宝十一面観音の中でも最も美しいとされる観音さまを拝観しました。

最後に、滋賀県の最北端に位置し古くからへき地医療に取り組まれているという長浜市立湖北病院を見学し、帰路につきました。

今回もまた、地域の方々をはじめてとして、たくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

里親学生支援事業としての4回目の卒業生を送り出しました

講義・実習中におけるスマートフォン・携帯電話等に関するFD・SD研修会を開催しました

2015年3月 9日

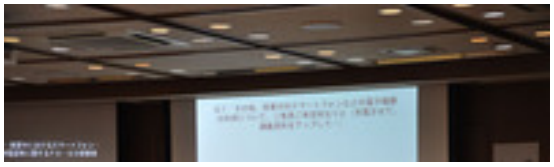
里親学生支援室では、平成27年2月18日（水）に看護学科棟の看護第1講義室においてFD・SD研修会を、NPO法人滋賀医療人育成協力機構の後援として開催しました。

研修会では、まず、里親学生支援室員であり、解剖学講座（神経形態学部門）の相見准教授から「アンケート調査結果報告」として講演がありました。講演では、「里親学生支援室」が別途調査した「講義・実習中におけるスマートフォン・携帯電話等に関するアンケート調査」結果を基に、実際に、教職員がどのような対応をし、どのように考えているのか、また学生がどのような用途で使用し、どのような要望があるのかなどについての話がありました。

続いて、医療情報部　永田教授とマルチメディアセンター　重歳助教から、「知っているようで知らない情報化社会の変化　学生たちに何を教える必要があるのか？」と題して講演がありました。講演では、IT技術の進歩によってどの世代でも使える、知らなくても自然に使える時代となりコンピューターリテラシーが低下していることや、情報の発信や共有が簡単になったことによって問題がおこっていることなどの話があり、SNSの具体的なしくみやリスク、またリスクに対してどのように対処すべきかを他大学のSNSガイドラインを参考に説明がありました。

終了後のディスカッションでは、授業での先生方の講義資料の提示の仕方などについての意見交換があったほか、「マナーに関することや注意すべきことは、いろんなところで繰り返し説明していかないといけないのでは」などの意見がありました。また、教員や学生が自由に参加できる「教育を勉強する会」（仮名）を継続的におこなっていきたいので、希望者は要望を寄せていただきたいとの呼びかけがありました。

なお、今回の研修会には、県内看護学校の方々も含め、約40名の教職員の方々にご参加いただき有意義な研修になりました。



講演では、ご自身の経歴をはじめ、現在ご担当されている教育活動や滋賀県の地域医療における問題点などについてお話がありました。

つづいて里親学生支援室長の垰田和史准教授（社会医学講座）から、「直近の事業では、他大学の学生や看護学生の参加もあり、事業が広がりを見せていることを感じ、今後も、地域の方々の支援をうけながら、地道に活動を行っていきたい」との挨拶がありました。

その後は、和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。

学生たちからは、「事業に参加することでより滋賀県を知ることができた」「今後、全国で若者を取り込んでいこうという取り組みがあると思うが、地域の人たちがどのように動いていくのかに関心がある」との感想や、また、初めて参加された里親の先生からは、「里親として何かできるのではないかと思いこの会に参加した」などの意見が聞かれました。

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

1月22日に「第4回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年2月 6日

1月22日（木）午後6時から滋賀医科大学CMCホールにおいて「第4回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

1つ目に、大学卒業後、滋賀医科大学小児科での研修医（2年間）・医員（2年間）時代は、医師としての基盤づくりと、結婚、第一子出産、夫の両親との同居が一気にスタートしたが、その新たな生活において「自分中心の主張だけではダメで、周囲の人との協力と譲り合い」が大切である事を学んだこと。

2つ目に、びわこ学園医療福祉センターでの勤務医（9年間）時代は、医師として専門性と研究活動に専念し、第二子出産もあった。その環境で「患者さんが中心で、その周りを囲む患者さんのご家族、上司、同僚の大きな輪の中に自分もいること、その和を大切にすること」を学んだこと。

そして現在、近江八幡市で開業医として地域の患者さんの疾患を診療するだけでなく、今までの経験を生かし育児支援のできる医師を目指し日々奮闘されているご様子を生き生きと聞かせていただきました。

自分自身が一番と考える「ピラミット型」思考が多い現在において、関係者との和を一番と考えながら前向きに行動されてきた先生のお話から参加された13名の学生は、将来への勇気と希望をもらうことができました。
ご多忙の中講演いただきました石塚 千恵先生、本当に有難うございました。

参加された学生さんの声

- 自分の将来に対するイメージや気持ちの持ち様を考えることができました。自分のキャリア、子どもを産みたい気持ち、家庭を大切にしたい気持ちがせめぎあって、まだ研修病院の場所も何も決めることができていませんが、今日お話を聞いて、自分がいいと思うこと、大切にしたいことをその時々で考えながら、周りの協力も請いたいと思いました。そのためには自分自身の人柄や、困っている人へのヘルプを迷わずすることが重要かなと思いました。
- 「自分自分」ではなく、患者さん、子どもを中心に周りの人々と協力しようとすると、上手くまわり始めるものだ、という言葉が心にしみました

11月6日に「第3回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2015年2月 6日

11月6日（木）午後6時から滋賀医科大学CMCホールにおいて「第3回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

精神科の先生のお話を聞きたいという学生さんの希望で、医学科卒業生で現在は滋賀医科大学精神医学講座教授の山田尚登先生（2期生）、琵琶湖病院理事長・院長の石田展弥先生（2期生）、いしやまクリニック院長の有村真弓先生（23期生）をお迎えし、「将来の君たちに滋賀医大の先輩が語る−教授になる方法、病院長になる方法、クリニック院長になる方法−」というテーマでお話をしていただきました。
山田先生からは、統計資料をもとに滋賀医科大学開学以降30数年間に精神科に入局した医師達のその後の進路と現在の地位について、また、教授となるための必須条件についてお話をいただきました。

石田先生からは、初めての精神科研修医として入局した当初から現在までの歩みを、同期生であった山田先生との関わりを交えながら楽しくお話いただきました。
有村先生からは、勤務医から開業医になった経緯を猫の話題を交えながら明るくお話いただきました。
どの先生も将来像を若い時から持っていた訳ではなく、チャンスが訪れた時に積極的にチャレンジした決断の結果が現在に至っているとのお話でした。

参加された学生さんからの声

- 精神科医に興味があったので、今回参加させていただきました。先生のリアルな体験の話、精神科はさまざまな分野で社会貢献ができるといったここでしか聞けない話がたくさん聞けてとても楽しかったですし、将来こんなことをしてみたいという希望もたくさん持てました。
- 精神科のイメージが重い感じだと思っていたので、先生方もそんな感じなのかなと思っていましたが、とてもおもしろい方々で驚きました。自分に与えられたチャンスをいかに生かせるかが大切なのかなと感じました。
- 生々しい話がお聞きできて、とても刺激的でした。三者三様のお立場からのお話は、微妙に差がある部分と一方で根っこのところで共通する部分もあって、とても参考になりました。
- 先生たちが楽しそうに話されていたのが印象に残りました。進路についてはまだ何も決められていないけれど、自分の履歴や現在について楽しく話せるような将来にしたいと思いました。
- とても楽しくためになりました。行政の関わりや、臨床と研究の関係など、考えたことのなかったようなお話もありました。あと、チャンスをいつも逃がしてしまう方なので、ものごとを恐れすぎずやってみることも大事だと思えました。
- 医局に入ると教授が人事を掌握しているということがよくわかりました。教授になるのに必要な条件という話は、他で聞いたことがなかったのでよかったです。
- さすが山田ファミリーという感じで本当に楽しかったです。開業は自分にはムリかなと思っていましたが、いけるかもしれないと思いました(笑)。 医者＝まじめでなければ、と思っていましたが、楽しく生きるのが一番かなと思いました。
- 行動力があれば何でもできそうだなと思いました。精神科の先生がすごいフレンドリーでびっくりしました。

学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2014年11月 4日

近江八幡市方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました！

2014年9月22日

8月28日（木）29日(金)に近江八幡市方面でNPO法人滋賀医療人育成協力機構に協賛し、平成26年度夏の宿泊研修を実施しました。本研修には、里親登録学生を含めた本学学生18名と近江八幡市立看護専門学校生2名が参加しました。

1日目は、まず琵琶湖最大の島であり、日本の湖水に浮かぶ島では唯一人が住んでいる沖島の自然と文化、1週間に一度開所される診療所の様子を見学させていただくことを目的に島を訪問しました。

島ではボランティアガイドの案内により、大人1人ほどが何とか通れる民家の間を抜け、奥津島（おきつしま）神社や西福寺などを見て回りました。

昼食には、島の婦人会の皆様による島の名産品を詰めた手作りのお弁当をいただいた後、コミュニティーセンターで毎週木曜日午後1時30分から、近江八幡市蒲生郡医師会の医師と近江八幡市立総合医療センターのスタッフで開所される診療所の様子を見学させていただきました。診療所では、自力で島外へ受診に行けないお年寄りの方々が診察に訪れられており、このような方々のためにも週一回の診療所の開所は必要不可欠なものであると感じられました。

夕方は、宿泊先であるグリーンホテルYes近江八幡において交流会を開催しました。

交流会の第1部では、近江八幡市蒲生郡医師会副会長　山本克與氏から「近江八幡地域における医師会活動と沖島等での医療活動の実情等について」、ヴォーリズ記念病院在宅サービス部門長（兼）訪問看護ステーション・ヴォーリズ所長　向　美保氏から「訪問看護ステーションでの活動報告」についてご講演いただきました。

また、交流会2部では、訪問先の関係者の方々や医師会の方、里親・プチ里親の方々など総勢11名の方にご参加いただき、各々の立場での地域医療についての役割や思いをお話いただく等、貴重な意見交換、懇談の場となりました。

午後からは、近江兄弟社ヴォーリズ記念病院を訪問しました。まず緩和ケア医の細井部長から、ホスピス医になられたきっかけやホスピス医の仕事についてお話をいただき、次に周防病院長から、病院概要について説明をうけた後、３月に出来上がった回復期リハビリテーション病棟、訪問看護ステーション等を見学させていただきました。また、礼拝堂の内部も見学させていただくことができ、その際には、丁度その場におられた安部牧師からお話を聞くことができました。学生は病院における牧師の役割等についても熱心に質問していました。

今回もまた、地域の方々をはじめてとして、たくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、地域医療に興味を持っている友人やクラブの後輩なども誘って参加して欲しいとの呼びかけがありました。

今後の事業予定

1　学生と里親とのマッチング（新入生7名）

2　夏期宿泊研修　近江八幡市方面（8月28日～29日）

3　里親・プチ里親との研修会・意見交換会（1月）

4　春期宿泊研修　湖北方面（3月）

その他、決定次第、随時メール等で案内します。

4月23日に「第2回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2014年5月 9日

4月23日（水）午後6時から滋賀医科大学CMCホールにおいて「第2回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

講師には、医学科卒業生（25期生）で、あざいリハビリテーションクリニック院長で、里親学生支援室学外室員、NPO法人滋賀医療人育成協力機構の理事もされている松井善典先生をお招きし、「医学生・看護学生のあなたがプロの医療者になるための『二人の自分を大切に育てるコツ』」というテーマで、お話いただきました。教師を目指していた高校生が、1日看護師体験で見学した整形外科の手術の感動から、医師を目指すことも選択肢となり、その後の進路選択と決定、滋賀医科大学での大学生活、大学卒業後の2年間の初期研修先の選択と決定、3年間の後期研修先の選択と決定、2年間のフェローシップ、そして故郷長浜へ戻ってからの仕事について、成長していくうえでのロールモデルとなる人の出会いとつなが

～参加学生の感想を一部紹介～

・「目標のたて方」という言葉にはっとしました。医学部に入学して以来活動したくても日々の勉強に忙殺されてやりたい学びが全くできずより消極的になっている自分に嫌気がさす日々でしたが、今は今の自分にふさわしい目標をたてようと思います。

・「自分らしい自分」と「プロとしての自分」という見方がなかったので、日頃のモヤモヤを整理するきっかけとなった。

・「与えられた役割と環境を生かして」と「成人学習型」の2点が印象に残りました。普段、何気なく過ごしている大学生活や出会いにも意味があり、その中で疑問を感じ、行動に移すことを目標にしたいと思います。授業では聞けない重

大津・湖南方面で宿泊研修を実施しました！

2014年4月 9日

3月18日（火）19日（水）に大津・湖南地域方面で平成25年度春の宿泊研修を実施し、里親登録学生を含めた本学学生11名と自治医科大学学生2名が参加しました。

1日目は、JR大津駅を出発し、徒歩で滋賀県庁へ向かいました。県庁では、滋賀県健康福祉部角野次長から、滋賀県健康福祉部の行政組織図を元に、滋賀県の健康や医療、福祉について、具体的にどのようなことを担当しているのかなどのお話がありました。

参加学生からは医者として行政にかかわっておられる角野先生の仕事へのやりがいなどについて、多くの質問がありました。

午後からは、坂本地区に診療所を開設し26年目の坂本民主診療所を訪問しました。診療所では、今村所長から診療所の開設当時のお話を含め、診療所の日常の役割や在宅医療の現状、地域包括ケアについてのお話がありました。質疑応答では、学生から地域医療にかかわる多くの質問がされました。その後、院内の施設を見学させていただき、看護学科の学生は、看護師の方々にお話を聞かせていただきました。次に、班別に分かれて診療所近くの介護福祉施設等（日和の里、デイサービスセンターこすもす、良の家、雅荘、宅老所はな）にそれぞれ訪問し見学実習をさせていただきました。

夕方からは、宿泊先であるKKRびわこにおいて交流会を開催しました。

２日目は、まず、平成6年に世界文化遺産に登録された、天台宗の総本山である比叡山延暦寺を訪れました。ここでは、室員である解剖学講座相見准教授の説明で、滋賀医科大学しゃくなげ会の慰霊法要でお借りしている阿弥陀堂をはじめ、不滅の法灯のある根本中堂などを見学しました。その後、横川にある滋賀医科大学霊安墓地へ向かい、黙祷を行った後、墓地内の掃除を行いました。

　午後からは、守山市にある県立成人病センターを車窓から見学し、栗東市の社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院を訪問しました。済生会滋賀県病院では、救急センターを見学後、塩見救命救急副センター長からは、県湖南地域で唯一の3次救命救急センターとしての役目と、県内初のドクターカーの運用等についてのお話があり、馬場病理診断科部長から病院における病理医の役目についてお話いただき、学生からもたくさんの質問がありました。その後、総務部の小林さんから、病院概要についてのお

大学までの帰路では、草津市にある草津総合病院を車窓から見学し2日間の宿泊研修を終えました。

今回も、また、地域の方々を始めとして、各地域の医療関係者等多くの方々にご協力いただき、ふれあいのある心温まる研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

なお、今回の研修では、京都新聞による取材がありました。

里親学生支援事業として3回目、医学科で初めての卒業生を送り出しました

2014年3月31日

平成26年3月10日（月）に平成25年度滋賀医科大学の卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、3回目、医学科では初めての卒業生（医学科15名、看護学科9名）を送り出しました。卒業式当日は、例年にはない小雪の舞う寒い一日となりましたが、ほぼ全員の登録学生が集まり、里親学生支援室員が卒業生を囲んで記念撮影を行いました。垰田室長からは、「長い意味で滋賀県になんらかの形で貢献してほしい、また今度は後輩たちに支援をしてやってほしい」との言葉がありました。

育はもとより、地域の方々にも利用してもらえるように広く社会に公開している旨のお話がありました。
　つづいて里親学生支援室長で、社会医学講座の垰田和史准教授から、今春初めて里親学生支援事業として医学科の学生を社会に送り出すことになり、今後、益々この事業の真価を発揮していきたい旨の挨拶がありました。
　その後は、和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。
　学生たちからは、「地域里親学生支援事業は、人と人のつながりを大切にする将来役立つ内容なので、これからも積極的に参加していきたい」などの感想や、また、里親の先生からは、「日々の仕事では、主に患者さんとの関わりしかないが、このような事業に参加することで、後輩学生との交流をしたい」などの意見が聞かれました。
　お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

１月１０日に「第１回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

2014年1月30日

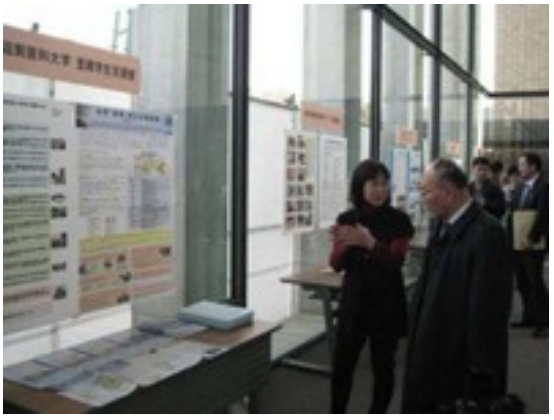
　１月１０日（金）午後6時から本学教職員ロビーにおいて「第１回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

　本講座は今回が初めての試みであり、事前に学生から講演のテーマについて希望を募り、今回は、救急で働かれている医師（できれば女性医師）の先輩に、仕事と家庭の両立と、自分で開業すること（親

環びわ湖大学地域交流フェスタでポスター発表を行いました

2013年12月27日

平成２５年１２月１４日（土）龍谷大学　瀬田キャンパスにおいて開催された『環びわ湖　大学地域交流フェスタ２０１３　「地域に根ざす人づくり」』において、地域の住民や団体等とともに、大学・学生が地域の課題解決や魅力の発掘、情報発信などに取り組んでいる地域を元気にする活動のポスター発表に、“地域「里親」学生支援事業”についてのポスターを出展しました。
当日は、滋賀県で学ぶ学生や地域住民など多数の方々が、ブースにお越しいただきました。



場所は、昨年と同様に福利棟の一角を借り、今年もＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構との合同でのブースとなりました。今年は、台風接近で学園祭の開催が危ぶまれましたが、両日とも何とか無事開催することができました。

ブースでは、「里親学生支援室だより」の拡大版や宿泊研修での写真（⇒ 平成２４年度　春の宿泊研修　平成２５年度　夏の宿泊研修.pdf）の掲示を行ったほか、宿泊研修におけるご講演やＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構　広報誌「めでる４号」でも取り上げた　早川　一光先生の医学概論Ｉの授業風景のビデオを継続的に上映しました。

また、「学生支援ニュース」等の発行物を自由にお持ち帰りいただけるようにして、里親学生支援室の取り組みを広くＰＲするよう努めました。

ご来場のうえブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

彦根･米原方面での宿泊研修を実施しました！！

2013年10月 4日

8月28日（水）29日（木）に彦根・米原方面で平成25年度夏の宿泊研修を実施し、里親登録学生を含めた本学学生12名と自治医科大学学生4名が

午後からは、彦根市にある彦根市立病院を訪問しました。まず、金子病院長からの挨拶の後、学生からは簡単な自己紹介をしました。その後、循環器科池田医長から「彦根市立病院での救急医療について」、小児科西島部長からは「医師が働きやすい職場づくりについて」と題して、ご講演をいただきました。池田医長のご講演では、実際に救急搬送された症例を挙げて彦根市立病院での救急医療の特徴についてご説明いただきました。また、西島部長のご講演では、女性医師が働きやすい職場は、男性医師も働きやすい職場であり、彦根市立病院では、院内保育所を365日開けており、毎週火・木曜日には24時間保育を行うことで、女性医師にとっても働きやすい職場として環境整備を行っているとの説明を受けました。

次に、内科でのカンファレンスの様子を再現いただき、学生達に雰囲気を体験させていただきました。

最後は、緩和ケア病棟とヘリポートを見学させていただき、ヘリポー

交流会の第一部では、平尾米原市長の挨拶の後、米原市福祉支援局の馬渕局長からは「米原市の現状と10年後を見据えた医療福祉の在り方」というテーマで、彦根市立病院の日村副院長からは「在宅医療支援への取り組み」というテーマで、それぞれ米原・彦根両市の将来への取り組みについてご講演をいただきました。また、地域包括ケアセンターいぶきの畑野センター長からは、米原市での地域包括ケアについてのお話をいただきました。

交流会の第二部では、訪問先の病院長を始めとする先生方や行政の方々、里親・プチ里親の方々など総勢１６名の方にご参加いただき、各々の立場での地域の医療についての考えや思い等をお話しいただく等、貴重な意見交換、懇談の場となりました。
そして、最後にプチ里親の川村啓子さんのご提案で、龍笛演奏に合わせて「琵琶湖周航の歌」を合唱し、交流会を終了しました。
なお、交流会第二部の最初に、彦根市のご厚意により、近年のゆるキャラブームの火付け役となったマスコットキャラクターの“ひこにゃん”がサプライズとして登場すると、会場は大いに盛り上がっていました。

2日目は、まず、米原市上板並地区を訪問し、地域の方々との交流・座談会を開催しました。本企画は、地域包括ケアセンターいぶきの畑野センター長の発案によるもので、地域包括ケアセンターいぶきの畑野センター長を始めとするスタッフの皆様方や上板並地区にお住いの伊賀並正

昼食は、上板並地区の皆様に地元で採れた食材を使った家庭料理でもてなしていただきました。ケアセンターいぶきの皆様、そして、上板並地区の皆様、本当にお世話になり、ありがとうございました。

なお、上板並地区での研修の様子は畑野先生の作成されたホームページで詳しく掲載されています。

午後からは、国宝・彦根城を自由散策した後、本研修の最後として、公益財団法人豊郷病院を訪問しました。

豊郷病院では、豊郷町のマスコットキャラクターである「よいとちゃん」を始め、病院関係者の出迎えを受け、まず、友吉名誉院長から豊郷病院創設者の伊藤長兵衛氏や地元出身の豪商の地域への貢献、近江商人の「三方よし」の信条についてのお話をいただきました。次に蔦本病院長（滋賀医大2期生）からは、滋賀医科大学が守山仮校舎から瀬田に引っ

今回も、また、地域の方々を始めと

里親登録学生と里親学生支援室員の顔合わせ（懇談会）を行いました

2013年7月 8日

６月２０日（木）の昼休みに、里親登録学生（新規登録学生９名を含む）と里親学生支援室員との懇談会を、ＣＭＣ（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

今回は、里親登録学生だけでなく、滋賀県からの奨学金を受給している学生にも参加を呼びかけたところ、併せて二十数名の参加者がありました。

まず、初めに室員及び学生の自己紹介が行われ、次に、垰田室長から里親学生支援事業の概要についての話があり、今年度の事業計画について具体的な説明がありました。学生には、里親の事業に積極的に参加することで滋賀県をもっと知ってほしい、また、地域をめぐる中で、その土地の人たちの期待を肌で感じ取って欲しいとの呼びかけがありました。

今後の事業

１　学生と里親とのマッチング（新入生、他２名）

２　県内出身自治医科大学同窓会ワークショップへの参加（７～９月）
　　報告会は、秋か冬

３　夏期宿泊研修　彦根・米原方面（８月２８日～２９日）

４　教職員対象のＦＤ研修会（秋）

里親学生支援室が共催で実施した宿泊研修に本学学生８名（内里親登録学生４名）が参加しました。

　１日目、まずは地域の歴史・文化を学ぶ目的で甲賀市甲南町にある３００年前に建築され日本でただ１つ残る甲賀流忍術屋敷と、水口町にある４つの池に囲まれてその名がつけられた大池寺を訪問しました。大池寺には、江戸初期に小堀遠州の手によって作られたと伝えられる観賞式枯山水庭園があり、参加者一同、その幽雅流麗な様に心休まるひと時を過ごすことができました。

　午後からは、湖南市にある甲西リハビリ病院を訪問しました。
まず、飯田総務課長から、発症から２ヶ月以内に入院していただき早期かつ集中的にリハビリテーションを提供するリハビリテーションに特化した病院である等の説明がありました。次に、田中院長より「リハビリテーションの現状と地域が抱える問題」についてご講演いただき、リハビリについて、医療関係者の中でも理解が深められていない現状と医療保険制度と介護保険制度をめぐる現状と課題について学びました。また、質疑応答などでは、学生から質問が活発によせられました。その後、院内を見学させていただきました。
特に、機能回復訓練室では、患者個々の在宅復帰を見据えての訓練が細かにされている様子が伺えました。

また、交流会第２部では、公立甲賀病院長を始めとする訪問先の方々やプチ里親の方々にもご参加いただき、学生や教職員とともに、それぞれのお立場から地域医療への想いを伝える和やかな交流の場となりました。

２日目は、まず、信楽町にある甲賀市立信楽中央病院を訪問しました。
平岡事務長から、甲賀市の概要や病院概要についての説明をいただきました。信楽町は甲賀市の中でも高齢者の占める割合が高く、病院では３ヶ所の出張診療所や訪問診療も担っているなどの説明を受けました。その後、平岡事務長にご案内いただき、滋賀県最南端にある多羅尾出張診療所を見学しました。当日は、診療の行われない日でしたが、施設内を拝見し、地域の医療をささえる診療所となっていることを実感しました。

午後からは、引っ越し間近でご多用な時期の訪問にもかかわらず、研

　今回も、また、多くの方々にご協力いただき、学生達にとっても甲賀・湖南市における地域医療や歴史・文化を理解する大変有意義な研修になったようです。この場をお借りして、ご協力いただきました訪問先を初めとする皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。
　なお、今回の研修では、朝日新聞による取材がありました。

里親学生支援事業として2回目の卒業生を送り出しました

2013年3月26日

平成25年3月7日（木）に平成24年度滋賀医科大学の卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、2回目の卒業生（看護学科7名）を送り出しました。卒業式当日は、里親登録学生達の門出にふさわしく雲ひとつない晴れわたった空のもと、卒業生には花束を贈呈し、里親学生支援室員が卒業生を囲んで記念撮影を行いました。今回卒業する学生達は、大半が滋賀県内に就職することもあり垰田室長からは「今後は君たちも里兄（さとにい）、里姉（さとねえ）（里親の若手版？）となり、後輩たちを支援してやってほしい」と激励の言葉がありました。

- 私も里親さんと同じ助産師になれました!!
  みんなと宿泊研修で一緒に話したり、医療のことを学べたりと
  ても充実してました。ありがとうございます。

- 里親登録させて頂いて良かったです。
  里親さんと出会えて本当に幸せです。ありがとうございました。

- 沖島の離島での地域医療を知れたことが一番心に残っています。
  先進医療だけでなく様々な現状を抱えている地域の問題を知れて
  よかったです。

- 滋賀の特性がよく分かる宿泊研修で、自分がこの土地で働くにあ
  たっての心に留めておくべきことが分かった気がします。

- 甲賀市に研修に行き、とても勉強になったことがとても印象に
  残っています。ありがとうございました！

- たくさんの地域を見て、滋賀の良さを知ることができました。
  ありがとうございました。4月からは医大でがんばります。

「今時の学生」問題と教育方法改善に関するFD・SD研修会を開催しました。

2013年3月 5日

平成25年2月14日（木）に看護学科棟の看護第1講義室において「地域里親学生支援事業」の一環であるFD・SD研修会を医療人育成教育研究センター教育方法改善部門との共催として、また、NPO法人滋賀医療人育成協力機構の後援として開催しました。

研修会では、まず、里親学生支援室長であり、社会医学講座（衛生学）の垰田准教授から「教職員が遭遇している『今時の学生』問題」として講演がありました。講演では、「里親学生支援室」が別途調査した「今時の学生」問題に関するアンケート結果を基に、教職員が学生をどのように感じているのかについてのお話がありました。

続いて、精神医学講座　山田教授から、「学生の授業態度や学生生活上のマナーの低下問題について」と題して講演がありました。講演では、先生の周囲で起こった事例や、独自に教員から聞かれた話題を基にお話があり、先生からは、果たして我々教員は学生に対し礼儀作法を教えてきたのだろうかという問題提起がありました。

FD研修会･意見交換会を開催しました

2013年2月13日

１月３１日（木）、アーバンホテル南草津において「地域里親学生支援事業」の一環である「ＦＤ研修会・意見交換会」を開催しました。

当日は、里親・プチ里親の方々の他、医学科及び看護学科後援会の役員の方にもご出席をいただき、２５名を超える参加者での研修・意見交換会となりました。

初めに生前に事業へご協力いただいたプチ里親の宮田智子さまがお亡くなりになられたことの報告があり、１分間の黙とうを捧げました。

その後、垰田里親学生支援室長より「滋賀が好きな医療人をみんなで育てる」というテーマで講演を行いました。

講演では、旧プログラム「地域「里親」による医学生支援プログラム」が始まった経緯や滋賀医療人育成協力機構を立ち上げることで、将来滋賀県で働きたいと考える医学生を県全体で応援できるようになったことなど、活動内容の報告も含めての説明がありました。

ペアで参加された里親・里子の姿もあり、より一層交流ができる良い機会となったようです。

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2012年11月 1日

１０月２７日（土）～２８日（日）に滋賀医科大学の学園祭（若鮎祭）が開催され、里親学生支援室もブースを設けました。

場所は、昨年と同様に福利棟の一角を借り、今年もＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構との合同でのブースとなりました。

ブースでは、「里親学生支援室だより」の拡大版や宿泊研修での写真（⇒　平成２３年度　春の宿泊研修　平成２４年度夏の宿泊研修　.pdf）や、自治医科大学滋賀県同窓会「さざなみ会」とNPO法人滋賀医療人育成協力機構の共催で行われ里親登録学生も参加したワークショップ２０１２「家庭医ｉｎ滋賀」の様子の掲示を行ったほか、宿泊研修におけるご講演のビデオを継続的に上映しました。

また、「学生支援ニュース」等の発行物を自由にお持ち帰りいただけるようにして、里親学生支援室の取り組みを広くＰＲするよう努めました。

永源寺等東近江方面での宿泊研修に里親登録学生が参加しました！

2012年9月14日

「永源寺等東近江方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、8月28日（火）29日（水）の2日間、NPO法人滋賀医療人育成協力機構が実施する宿泊研修に本学里親登録学生12名が参加しました。

１日目は、まず、東近江市役所を訪問し、西澤市長から東近江市の医療状況、国立病院機構滋賀病院及び東近江市立の２病院の病院改革といった東近江市の医療政策についてのお話を伺い、知識を広げたうえで、東近江市立蒲生病院を訪問しました。蒲生病院では、加藤院長の挨拶の後、徳田事務長より蒲生病院の概要や東近江市における病院の整備計画等についてのお話を伺いました。その後、休床中の病棟等、院内見学をさせていただきました。

診療所内を見学させていただいた後、永源寺診療所が行っている「在宅医療」「地域包括ケア」「地域とともに」というテーマで診療所での先生の活動についてご講演をいただきました。また、同診療所で研修中の研修医２年目の２名の先輩医師からも学生に向けてアドバイスをいただきました。

　その後は、東近江の歴史・文化を学ぶことを目的に臨済宗永源寺派の大本山である永源寺をボランティアガイドの案内により見学しました。

　１日目の最後は、宿泊場所の「クレフィール湖東」での交流会でした。交流会第１部では、フォトジャーナリストの國森康弘さんから、ごく自然な家庭での介護の様子や家族の病人へのかかわり方、そしてその中での医師の役目等を考えさせられる写真を見せていただきながら“看取り”についてご講演いただきました。引き続き、ＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構の副理事長である小串医院の小鳥先生からは、「医師不足・医療崩壊の危機の中で地域の医療福祉の連携により住民を支える三方よし研究会の歩みと挑戦」というテーマで東近江圏域の地域医療連携の取り組み等についてご講演いただきました。

２日目は、まず、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「五個荘金堂の町並み」にある、近江商人屋敷を見学しました。

　その後、学生達は、３班に分かれてそれぞれ「結の家デイサービスセンター」「デイサービスセンター加楽」「障害者就労継続支援 湯屋の里」に研修に伺いました。

　午後からは、本研修の最後の訪問先である国立病院機構滋賀病院に伺いました。まず、本学卒業生でもある井上院長よりご挨拶をいただいた後、学生達から自己紹介を行いました。そして、来見副院長より「東近江の医療について」のお話を伺い、その後、２班に分かれて院内をご案内いただきました。その際には、新病棟の建築現場等も見せていただき、１日目に西澤東近江市長からのお話にもあった、東近江の地域医療

今回も、また、多くの方々にご協力いただき、学生達にとっても東近江における地域医療や歴史・文化を理解する大変有意義な研修になったようです。この場をお借りして、ご協力いただきました訪問先を初めとする皆様方に厚く

余呉･長浜等湖北方面での宿泊研修に里親登録学生が参加しました！

2012年4月20日

「余呉・長浜等湖北方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、３月２２日（木）～２３日（金）の２日間、ＮＰＯ法人滋賀医療人育成協力機構が実施する宿泊研修に本学里親登録学生６名が参加しました。

１日目の午前中は、長浜市内をボランティアガイドの案内により、「長浜御坊」の名で呼ばれている大通寺や長浜曳山まつりの歴史・文化が分かる曳山博物館を見学しました。昼食には、長浜名物「のっぺいうどん」を食し、食後の約１時間、各自、思い思いに黒壁スクエア等、長浜市内を観光しました。

午後からは、長浜赤十字病院を訪問し、濱上病院長より挨拶を受けた後、東日本大震災時における石巻赤十字病院の活動記録のＤＶＤを視聴し、病院の施設を見学させていただきました。

長浜赤十字病院での様子

次に向かったのは、市立長浜病院です。市立長浜病院でも、多賀副院長から挨拶を受けた後、現在、市立長浜病院で勤務されている滋賀医科大学の３名の卒業生から、本人らの経験談に基づく、様々なアドバイスをいただきました。また、その後は、院内も見学させていただきました。

市立長浜病院での様子

宿泊先の「長浜ロイヤルホテル」での交流会第一部では、長浜市立湖北病院の田中副院長より「湖北病院の地域医療」というテーマでご講演をいただきました。

また、交流会第二部では、訪問先の市立長浜病院に勤務されている滋賀医科大学の卒業生の先生、長浜市役所やプチ里親など１１名の方々にご参加いただき、それぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。学生からは、本日の研修での感想や医師又は看護師を目指すきっかけなどの話があり、今回、参加学生が少なかった分、より密度の濃い意見交換・交流の場がも

交流会2部にご参加の皆さま

２日目は、あいにくの雨でしたが、午前中は、江戸中期の儒学者である雨森芳洲の生涯をたどり、思想や業績を顕彰するとともに、東アジアとの交流と友好をめざす拠点である東アジア交流ハウス雨森芳洲庵を見学しました。次に、日本全国に七体ある国宝十一面観音の中でも最も美しいとされる渡岸寺観音堂の十一面観音を拝観し、その後、古くから眼の仏様、延命息災の仏様として信仰を集めてきたお地蔵様が奉ってある木之本地蔵院に参拝しました。

雨森芳洲庵での様子

木之本地蔵院

そして、長浜市立湖北病院を訪問し、田中副院長の案内で病院内や併設する介護老人保健施設「湖北やすらぎの里」など４つの施設を見学し、それぞれの施設の果たす役割について、分かりやすく説明していただきました。

午後からは、長浜市立湖北病院杉野診療所への出張診療に同行させていただき、診察現場を見学させていただいた後、地域住民の方々や長浜市議会議員の方に地域の現状をうかがいました。学生からは、地域住民の方々から、直接、医療を求める切実な声などの地域医療の現実をお伺いすることができ、普段の大学での学習では得られない貴重な機会を得て、将来について考えていくためのヒントを得たとの声がありました。

杉野診療所での診療見学

地域の方との交流の様子

今回の研修も、また多くの方々にご協力いただき、学生達にとっても大変有意義な研修になったようです。この場をお借りして、訪問先を初めとする皆様方に厚くお礼申し上げます。

なお、長浜市立湖北病院では、京都新聞社及び中日新聞社の同行取材がありました。

初めての卒業生を送り出しました

2012年3月15日

平成２４年３月９日（金）に平成２３年度滋賀医科大学卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、初めての卒業生（看護学科４名）を送り出しました。卒業に際して、卒業生には花束を贈呈し、記念に卒業生を囲んで写真撮影をしました。当日は、あいにくの雨で屋外の景色の良い場所での撮影はできなかったものの、終始笑顔での撮影となりました。卒業する学生達は、高い志を持って里親学生として登録した学生であり、かならずやそれぞれの新しく進む道で活躍してくれるものと確信しています。また、滋賀医科大学の里親学生支援事業を広め、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。

ブースでは、「里親学生支援室だより」の拡大版や宿泊研修の写真等の掲示のほか、ＦＤ研修会や宿泊研修におけるご講演のビデオを継続的に上映しました。
また、「学生支援ニュース」等の発行物を自由にお持ち帰りいただけるようにして、里親学生支援室の取り組みを広くＰＲするよう努めました。
里親の先生方がブースにご来場された際には、現在の取り組み内容についてご意見をいただいたりして、良い交流の場となると共に、学生の保護者や一般の方々からは様々な質問をいただく等、より多くの方々に地域里親学生支援事業について関心を持っていただけたのではないかと思います。

地域「里親」ブースの様子

ご来場のうえブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

高島･朽木等湖西方面で宿泊研修を実施しました　！

2011年9月13日

「高島・朽木等湖西方面の医療

医療機関や福祉施設を訪問し体験的に学ぶことを中心とした研修としました。

１日目のそれぞれの研修先へ向う車中では、垰田室長（社会医学講座衛生学　准教授）による大津市・高島市の総合病院や地域の医療機関との役割等の説明を聞きながら、大津市の社会保険滋賀病院、大津市民病院、大津赤十字病院、琵琶湖大橋病院の外観を車中より見学しました。また、自治医科大学生の自己紹介などもあり、終始和やかな雰囲気で過ごすことができました。
「道の駅びわ湖大橋米プラザ」での昼食後は、ふくた診療所を初め、マキノ病院、朽木診療所、まつもと整形外科、特別養護老人ホームふじの里、特別養護老人ホーム清風荘へとそれぞれ分かれて研修に伺いました。

ふくた診療所では、里親でもある福田院長のもと、医学科４年の学生１名が訪問診療の同行実習に参加させていただきました。参加した学生は、日頃、坂本から北小松の９駅にまたがる地域を訪問診療に回っておられる先生の御苦労や大学の講義では聞くことのできない地域医療の魅力について伺うことができたようです。その中で、「医療技術じゃなくてできる医療がある」との言葉が非常に印象的であったと申しておりました。

マキノ病院では、医学科３年と２年の学生３名が訪問看護の同行実習に参加させていただきました。実習では、小規模多機能型介護施設に隣接した適合高齢者専門賃貸住宅を訪問させていただき、参加した学生は、スタッフの方が事務的な事から食事の世話までされていることや利用者の方とスタッフの関係が近く、明るい雰囲気の中で過ごされていることが印象的であったとのことでした。

朽木診療所では、川嶋所長のもと、医学科４年と３年の学生２名が安曇川ふれあいセンターでの１歳６か月の乳幼児健診を見学した後、パーキンソン病の患者さんのお宅への訪問診療に同行させていただきました。乳幼児健診では、子供の心音を聞く体験をさせていただいたり、訪問診療では訪問リハビリの方と訪問先で遭遇し、その様子を見学させていただくなど少人数での研修ならではの体験ができたとのことでした。

まつもと整形外科では、里親でもある松本院長のもと、医学科３年の学生１名が診療見学実習を行いました。松本先生からは、開業に至った経緯のお話を伺ったり、実際の診療の様子を見学させていただきました。参加した学生は、診療については

ど現場で働く職員から、それぞれのお立場でのお話を聞くことができました。看護師の方からは、人数が少ない為に幅広い知識と技術が必要なことや職員間の連携の大切さについてのお話がありました。また、福祉施設といえども入所者の状況は年々重度化しており、施設ではできる処置も限られていることから、地域の病院の支えがあってこそやっていけるとのことでした。介護士の方からは、介護的に難しいケースを受け入れる中で医療行為を行うことやリスクの高い夜勤が特に不安であるとのお話がありました。学生からも事故があった時の対処などについて熱心に質問があり、非常に有意義な研修となりました。最後に、学生たちへ「地域に根差した医師になって欲しい。そのために、まず自身の家族の様子を実感して欲しい。自分の両親や祖父母の加齢の遷移を見ることで学べることがある。高齢者特有の状態などをよく理解し、地域住民にとって身近な先生になって欲しい。」とのメッセージをもらって施設を後にしました。

特別養護老人ホームふじの里

　特別養護老人ホーム清風荘には、医学科の２年と１年の学生３名と教職員が訪問させていただきました。まず、前田施設長から施設の概要についての説明をいただいた後、隣接している今津病院との連携についてのお話を伺いました。その後、施設でも数少ない医療従事者である近藤看護師より、医療従事者としてのやりがいや判断の難しさ等についてのお話を伺いました。また、生活相談員の方の案内で、施設内を見学させていただいた際には、入居者自身の自宅で使用している家具が持込まれていたり、食事を作ることのできるキッチンが備わっていたりと、より自宅の環境に近い状態を実現するよう工夫されていました。その他、ローラー付きの椅子やすべての部屋に患者さんを移動しやすいように天井取り付けのリフトがあるなど、入居者だけでなく、スタッフにとっても優しい施設として取組まれていることを実感しました。学生達も直接スタッフの方々の

宿泊場所の「びわ湖畔白浜荘」での交流会第１部では、保健師でもある高島市役所健康福祉部健康推進課の清水主監より「高島市の地域と地域の医療・福祉について」というテーマで特徴や課題を分かりやすくご講演いただき、続いて、研修先としてもお世話になった朽木診療所の川嶋先生からは「朽木での診療活動について」というテーマで地域における医療活動の実情等をご講演いただきました。それぞれの講演では、学生からも熱心な質問がありました。

交流会1部 質疑応答の様子

また、交流会第２部は、高島のご当地Ｂ級グルメでも有名なとんちゃん焼きやマスのお刺身を食しながらの会となりました。研修先や里親・プチ里親など８名の方々にご参加いただき、それぞれのお立場からご意見をいただきました。学生や教職員からは研修内容の報告や意見発表をするなど、貴重な情報交換・交流の場となりました。

交流会　第2部の様子

２日目は、近江高島駅近くにある公立高島総合病院の外観を

今津ヴォーリズ資料館と旧今津郵便局

　その後は、朽木地区へ向い、最初に訪問したのは、６００年にわたり領主であった朽木家代々の菩提所でもある興聖寺でした。住職からはお寺の歴史等についてお話を伺い、国の重要文化財の本尊釈迦如来坐像を拝観させていただきました。また、同境内では、室町幕府の第１２代将軍足利義晴が京都の兵乱を避け、朽木氏を頼って身を寄せた時に造営された庭園を見ることができ、朽木地区の長い歴史の重みを感じることができました。

　最後は朽木鯖街道へ向いました。時間の都合上、街道を散策することはできませんでしたが、朽木陣屋跡や朽木資料館を見学し、朽木地区の歴史や雪深い地域ならではの昔の人々の暮らしぶり等について学ぶことができました。

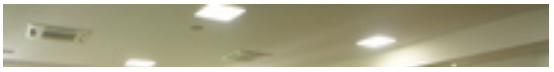
今回の研修もまた多くの地域の方々にご協力いただき、学生たちにとっても地域医療や地域の歴史・文化に対する知識を深められた大変有意義な研修になったようです。
この場をお借りして、ご協力いただきました訪問先を初めとする皆様方には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

里親登録学生と里親学生支援室員との懇談会を開催しました！

2011年9月13日

６月２１日（火）の昼休み、「地域『里親』学生支援」事業に新たに参加した第１学年の学生５名（新規７名のうち）と登録学生２１名（既存７８名のうち）と学内室員との懇談会を、ＣＭＣ（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

まず、初めに、室員及び先輩の里親学生からの自己紹介があり、続いて新たに本事業に参加した新入生から参加したきっかけなどを含めた自己紹介が行われました。
その後、相見室員から改めて新入生のために本事業の趣旨の説明や里親の方々との交流等の事業の進め方についての説明がありました。また、先の里親学生への宿泊研修についてのアンケートにより、夏の宿泊研修を、８／３０～３１に実施すること、今年度からは昨年度を持って学生支援ＧＰが終了したため、ＮＰＯ法人が中心となって宿泊研修を含めた様々な事業を実施していくため、里親学生には若干の費用負担が増えることなどの報告がありました。
そして、夏の宿泊研修の実施に当たって、過去に宿泊研修に参加した経験のある里親学生に意見を募りました。その意見の中には、一つの研修訪問機関をもっとじっくり見たい、単にスライドでの説明よりも体験談等を聞きたい、交流会では、病院の先生や里親・プチ里親の方々ともっとじっくりと話す時間が欲しい等、具体的に多くの意見が出され、学生たちの事業への意識の高さが感じられる会となりました。



大津市西部地区・草津方面で宿泊研修を実施しました

2011年3月25日

今回の宿泊研修は、実施の前週の３月１１日（金）に、東北地方太平洋沖地震が発生し、東日本の広域に甚大な被害がもたらされたことから、実施の適否について関係者で協議の結果、次のような考えに立ち、訪問施設等のご理解もいただいたうえで、予定どおり実施することにしました。（以下、里親学生支援室長から里親ＧＰ登録学生等へ実施前日に配信された電子メールの文面）

「里親」宿泊研修の実施について

３月１１日の「東北関東大震災」のあまりにも痛ましい状況に発する言葉がみつかりません。
お亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。
ところで、明日からの「里親」宿泊研修についてです。
中止も検討しましたが、「里親」宿泊研修の目的が観光ではなく、地域を理解し、地域の医療の大切さを学生が理解することを目的とした研修であることを重視し、予定通り実施することといたしました。また、医師や事務職員を災害支援のために派遣し、厳しい職員体制で診療を行っている診療所からは、困難はあっても予定通り受け入れてくれる旨の申し出もありました。

１日目は、滋賀県立精神医療センター・近江草津徳洲会病院・草津総合病院を外観見学の後、世界文化遺産に登録されている比叡山延暦寺へと向かいました。

到着後は、まず阿弥陀堂へ。室員で解剖学講座准教授の相見先生から、毎年５月にこのお堂で営まれる滋賀医科大学の解剖体納骨慰霊法要の様子などの説明を受けました。また、１２００年間守り継がれた「不滅の法灯」で知られる、国宝・根本中堂も拝観しました。

比叡山延暦寺

阿弥陀堂

根本中堂

昼食の後は、山道を３０分程度歩き、献体いただいた方々の分骨された御遺骨が納骨されている横川の大学霊安墓地へ向かいました。ここでは参加者全員で草取り・落ち葉かき・溝掃除など清掃作業を行い、最後に黙祷を捧げて下山しました。

滋賀医科大学　霊

安墓地の清掃作業

その後は２班に分かれて、坂本民主診療所とケアタウンからさきの訪問でした。

坂本民主診療所には、医学科３年の４名、看護学科２年の３名と引率の教職員３名の計１０名で訪問しました。まず、併設されている介護老人保健施設・日和の里を訪

　ケアタウンからさきでは、扇田在宅部長より老人介護を中心にご説明いただき三大介護、介護保険などを含め、大津市にしかないサービス自助・互助・共助についてもお話いただきました。交流会第１部で講演をお願いしていた越智先生のお名前もあがり、ケアタウンからさきはとても信頼しておられるようでした。
　また、石橋ケアマネージャーからは、「歳をとるということ」のお話を伺いました。
　その後、扇田在宅部長に院内を案内していただき、ご自慢の檜風呂をはじめ食堂や交流スペースを見学させていただきました。
　バスを待つ十数分も学生たちは、扇田在宅部長を囲み、介護などの話をしていました。

ケアタウンからさきにて

　宿泊場所でもある琵琶湖グランドホテルでの交流会では、第１部として、おち医院院長の越智眞一先生に「大津地域の医療」というテーマで地域における医療活動の実情等ご講演いただきました。
　まずは自己紹介として、開業されてから現在に至る診療のこと、続いて、大津市医師会の会長としてのお仕事のこと、そして大津市の地域医療として、公的病院・私立病院・開業医などそれぞれの役割や連携についてご講演いただきました。
　交流会第２部では、訪問先の副院長や滋賀医大卒業の先輩方、病院関係の方、里親・プチ里親・学外室員の方々など１３名の方にご参加いただき、それぞれのお立場からのご意見を伺い、学生たちも質問や自分の意見発表をするなど貴重な情報交換・

交流会第１部にて

交流会第2部にて

２日目の最初は、時折雪の舞う中、近江八景の一つ堅田の落雁として有名な浮御堂の見学でした。湖上通船の安全を発願し建立されたそうです。

その後、ボランティアガイドの方たちの案内で、日吉・坂本地区を散策しました。全国三千余社の山王さんの総本宮・日吉大社や穴太衆積みの石垣と白壁に囲まれた延暦寺門跡寺院・滋賀院門跡など歴史と文化を感じることができました。

浮御堂

日吉大社

穴太衆積み

滋賀院門跡

大津市民病院にて

大津赤十字病院では、廣瀬院長から、滋賀医科大学とは開学前から深い関係があること、病院には地域医療の基幹として、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、総合周産期母子医療センター、基幹災害医療センター、臨床研修指定病院等の役割を併せ持ち、殊に、今回の東北・関東地方における大震災による被災地へはいち早く医療救護班・ＤＭＡＴを連続して派遣されていること等についてご説明いただいた後、１００周年記念ＤＶＤを視聴させていただきました。続いて、土井副院長と伊吹看護部副部長から、本学卒業後、同院に勤務している若い医師（平成２２年卒・孫　永基さん、平成２１年卒・財間　千景さん）と看護師（平成２１年卒・森野　有香さん）の紹介があり、各先輩から後輩達にとして、働きがいや医療について思うこと等について、ご説明いただきました。その後、２班に分かれ、岡本副院長らの案内で、救命救急センター、備蓄倉庫、ＮＩＣＵを見学させていただきました。いずれも県下に誇れる施設・設備との説明もあり、一同納得の内容でした。

大津赤十字病院にて

今回の研修もまた、たくさんの方々のご協力によりとても有意義で、学生達が地域の医療や今後の進路を考えるうえで貴重な体験となりました。

この場をお借りしてお忙しい中、ご協力いただきました訪問先を初めとする皆様方に、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

FD研修会･意見交換会を開催しました

2011年1月19日

１月１７日（月）、クサツエストピアホテルにおいて「里親ＧＰ」の事業の一環である「ＦＤ研修会・意見交換会」を開催しました。
当日は、数日前からの厳しい冷え込みにより天候が心配される中にもかかわらず、里親・プチ里親の方々の他、医学科後援会の役員の方にもご出席をいただき、３０名を超える参加者での研修・意見交換会となりました。

FD・意見交換会の様子

垰田里親学生支援室長の挨拶の後、服部副学長に「滋賀の医療の担い手育成を支援する新しいとり組みについて」というテーマで講演していただきました。
医学科入学定員増の推移や地域枠の状況に続き、平成２２年度をもって文部科学省の補助事業としては終了となる『地域「里親」による医学生支援プログラム』の成果等についてお話いただき、また、それを踏まえて今後の課題として、大学が県・市町・病院・医師会などと協力して取り組むべき事業について講演されました。
次に、垰田室長から「２０１０年　活動報告」として、過去一年の間に行った主な事業等について、スクリーンにスライドを映し出しながら報告がなされました。
その後は、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われ、予定の２時間が短く感じられる有意義な内容となりまし

副学長の講演

意見交換・交流会の様子

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

コミュニケーションセミナー（第２回）を開催しました

2010年11月25日

１１月９日（火）・１２日（金）・１６日（火）・１８日

ミュニケーションの基礎知識」として、コミュニケーションの分類やヒューマンコミュニケーションの相互作用など、パート４では「コミュニケーション技法」として、傾聴の姿勢や質問のしかた等、基本的関わり技法など、パート５では「コーチングスキル」として、ペーシング・メッセージ・質問の種類などについて、いずれも親しみのもてるスライドを提示いただきながら、医療従事者を想定して分かりやすく説明していただきました。

学生たちが、今回のセミナーで得たことを、将来の医師・看護師等を意識しながらも、まず身近なところから役立て、里親やプチ里親の方など、目上の人や一般の地域の人たちとのコミュニケーション能力を高めるきっかけとすることを期待しています。

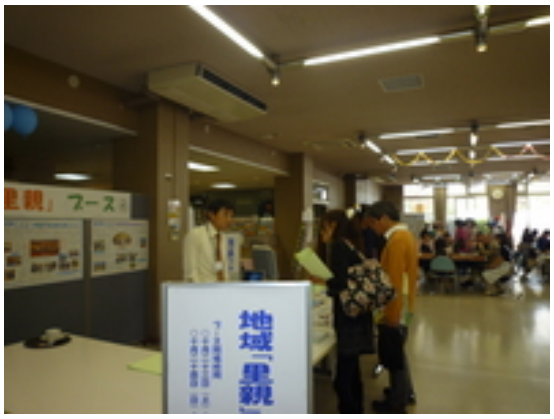
なお、残念なことに、今回、参加学生が少なく、講師の瀧川教授にはご迷惑をおかけしましたが、これにつきましては、今後の検討課題として、次回開催の機会に活かさせていただくこととしました。

講演される瀧川教授

コミュニケーションセミナーの様子

「学生支援ニュース」等の発行物も自由にお持ち帰りいただけるようにするなどして事業のＰＲに努めました。

今年は、本プログラムを知って来場される方もあり、また興味を持って資料を持ち帰っていただく方もあるなど地道な活動が徐々に浸透してきていることを実感しました。



地域「里親」ブースの様子

中庭のエリアでは、昨年の初回に引き続き、「東近江市」が出店、揃いの赤いハッピを羽織って、地域医療写真展と併せてジェラートと石焼きいもの販売などにより、盛んに市をＰＲされていました。

滋賀医科大学　県民公開講座を開催しました

2010年9月28日

１．日　　時：　平成２２年９月２６日（日）
　　１３時３０分～１６時００分
２．会　　場：　ホテルピアザびわ湖
　　６階クリスタルルーム
　　（大津市におの浜１−１−２０，
　　℡　０７７−５２７−６３３３）
３．テーマ：
　　「滋賀の医療と医師・看護師養成を考える」

里親学生支援室では、『地域「里親」による医学生支援プログラム』事業のシンポジウムとして、大学を主催に県民公開講座を開催しました。
学長の挨拶、垰田室長による事業報告の後、各方面からお招きしたシンポジストの方々に、短い時間ではありましたがそれぞれのお立場からテーマに沿った形で、現状の報告や今後の方向性などについてスライドを交えてご講演いただきました。

学長のあいさつ

医師会副会長の小鳥輝男先生からは、前東近江市医師会会長と

小鳥先生の講演

冨永先生の講演

看護協会の中西京子先生からは、看護師の実情と看護職が生涯を通して働き続けられるための環境作りの大切さなどについてお話しいただきました。

長浜保健所所長の嶋村清志先生からは、医療・福祉は地域を診る・知ることから始まる、そのためには地域の生活を住民から学ぶことが大切であることを知らなければならない、と話され、地道な活動の様子を中心に講演いただきました。

中西先生の講演

嶋村先生の講演

最後に服部副学長からは、医学科入学定員増の推移や地域枠の状況に続き、「里親ＧＰ」事業の成果と現状を踏まえての今後の課題やＮＰＯ設立を計画していること等について講演されました。

また、シンポジストの皆さま方からは、「里親ＧＰ」に対して、今後の期待も込めて高い評価をいただきました。

わっておられる方から今後の参考となるような貴重なご意見等をいただくなど、活発な意見交換が行われました。

意見交換の様子

彦根・米原・伊吹山方面で宿泊研修を実施しました

2010年9月13日

「彦根・米原・伊吹山方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、8月26日（木）～27日（金）の2日間、宿泊研修を実施しました。8月下旬にも関わらず、大変な猛暑の中、学生・教職員合せて55名という過去最多の大人数での研修となりました。

１日目は、滋賀県で一番高い（標高1377m）伊吹山に登りました。珍しい高山植物や周りの景色に目をやりながら遊歩道を歩くこと約40分。山頂からみる大パノラマは格別でした。

臼井先生のお話

地域包括ケアセンター見学

ゆったりとした施設内には、患者さんらが和やかな気分になれるよう、畑野先生撮影の花の写真などがいたるところに飾られていました。医学科3年の学生1名は畑野先生の往診にも同行させていただき、患者さんから教えられることがあり、また、先生からは地域に密着してその地に根差した医療を実践されていて素晴らしいと思った、との感想がありました。

次に、湖東医療圏の急性期医療を担う中心的な病院である彦根市立病院を訪問しました。赤松院長はじめ多数の関係の方々にご列席いただき、矢野副院長の総合司会により、院長から病院概要のご説明の後、救急センター所長の金子先生から「救急医療」のお話、広報委員会委員長の綿貫循環器科部長から「彦根市立病院ふれあいまつり」等のお話をそれぞれ伺い、地域や地域住民への熱心な働きかけを感じました。また、参加学生全員に将来の希望等について発言の機会をいただき、小児科医、産婦人科医、救急看護師等の他、滋賀県の医療に貢献したい等、各自思っているところを述べました。

宿泊場所でもある彦根ビューホテルでの交流会の第1部では、地域包括ケアセンターいぶきのセンター長である畑野先生に、日頃実践されている地域包括ケアについて、患者さんとのふれあいや伊吹山の写真等も織り交ぜ、分かり易くご講演いただきました。

会場を隣に移しての第2部は、学外から彦根市の松田副市長にもご参加いただき、また訪問先の病院長や副院長・病院関係の方々、行政の方、里親・プチ里親の方々など総勢20名の方にご参加いただき大変賑やかな交流会となりました。

松田彦根副市長

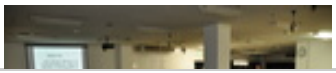
ご参加の皆様方からは、各々の立場等での地域の医療についての考えや思い等についてメッセージをいただき、貴重な意見（情報）交換、懇談の場となりました。また、彦根市のご厚意により、近年のゆるキャラブームの火付け役となったマスコットキャラクター“ひこにゃん”がサプライズとして登場すると、会場は一層盛り上がり、結果、ステージ　での記念撮影となりました。“ひこにゃん”の参加にも、ご配慮ご尽力いただきました、彦根市の皆様方ありがとうございました。

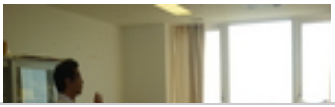
第2部終了後、学生たちは、学生同士交流会で引き続き親睦を深めました。

　2日目の最初は、国宝・彦根城でした。3名のボランティアガイドの方々の案内で、天守閣にも上り、眼下や周辺の景色を楽しんだ後、城山のふもとにある玄宮園を周遊しました。ガイドさんの説明も効果的で、江戸の時代に想いをはせ、歴史の重みを感じました。その後、夢京橋キャッスルロードで短いフリータイムの後、再び、バスに乗り込みました。

彦根城と玄宮園

　午後は、友仁山崎病院を訪問しました。人間ドック専用の階にあるラウンジに案内いただき、山本病院長から病院の概要として、理念や時代と地域の要請を受け入れ医療を提供されておられること等についてお話の後、7期生の林先生・9期生の作本先生からは各々の立場から先輩としてのお話を、浜副看護部長からは橋本看護部長からのメッセージを代読いただき、最後にモニターの映像で病院紹介をしていただきました。





FD研修会を開催しました

2010年7月27日

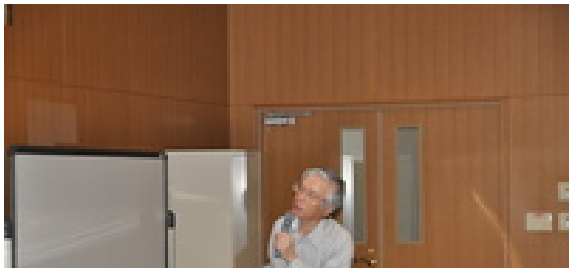
日　時：平成２２年７月２２日（木）
　　午後５時３０分～午後７時００分
講　師：医療法人社団　小串医院
　　理事長　小鳥　輝男（おどり　てるお）先生
テーマ：「東近江地域での地域医療再生の取り組み」
会　場：看護第１講義室（看護学科棟１階）

前東近江医師会会長として、地域医療の再生にむけて東近江市の地域医療体制検討会の議論をリードし、地域の医療や福祉の関係者と市民が参加した「三方よし研究会」を組織され、患者を中心にした医療と福祉の連携を追求されてこられた、小鳥輝男先生（現滋賀県医師会副会長）を講師としてお招きし、里親学生支援室と地域周産期医療学講座との共催で、学内教職員を基本の対象として行いました。

小鳥先生から、東近江市内にある国公立病院の機能を再編し、滋賀病院を本学も参画する市域の中核病院（（仮称）東近江総合医療センター）として位置づけ、二つの市立病院は後方支援施設の役割を担うとする等の東近江市病院等整備計画の概要や「三方よし研究会」の活発な活動を通じての地域連携完結型医療や地域医療とは医療をとおしての地域づくり（町づくり）であること等についてご講演をいただき、その後、質疑応答を含めた活発な意見交換が行われました。

今回の参加者は約４０名でしたが、学内からは学長と病院長にもご出席いただき、また、学外からは滋賀県や東近江市の関連部署にお勤めの里親、プチ里親の方々のほか、里親学生支援室の学外室員や後援会の役員の方等、多方面から多数ご参加いただき、参考となる様々な情報等を頂戴しました。

ご多忙の中、多数ご参加いただきまして、ありがとうございました。



コミュニケーションセミナーを開催しました

2010年6月30日

６月２９日（火）の昼休み、里親GP参加学生を対象にCMCホールで、コミュニケーションセミナーを開催しました。
里親学生支援室員でもある医療文化学講座（行動科学）・石川ひろの准教授によるセミナーで「人の話を聴くスキル」と題して、高コンテクスト-低コンテクスト・コミュニケーションを意識して使い分けること・聴くことの重要性・解読・記号化などに関して、例をあげながら分かりやすく説明を受けました。

里親GPの事業としては今回はじめての試みで、里親の先生やプチ里親の方々、訪問先の地域の方々とのコミュニケーションの取り方を、もう一度再認識して今まで以上のコミュニケーションが図れるようにということから企画しました。１回だけにとどまらず今後も回を重ねて開催していければと考えています。

新入生と里親学生支援室員との懇談会を開催しました

2010年6月23日

医療に関する「FD研修会」・彦根・米原・伊吹山方面での「宿泊研修」等の案内がなされました。
　このプログラムを新聞報道等で知って入学したという学生もおり、地道な活動が広がりつつあることを確信しました。

甲賀地域で宿泊研修を実施しました

2010年3月23日

「甲賀地域の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、３月８日（月）～９日（火）の２日間、甲賀市と湖南市で宿泊研修を実施しました。
３月に入って寒さのぶり返す中、県下でも最低気温を記録するところとして有名な甲賀地域での研修でしたが、訪問先の病院では大勢の方々のご協力により、体験なども盛り込んでもらうという大変熱い研修となりました。

１日目は、石部医療センターの外観見学のあと、県下で唯一リハビリテーションの精神に基づいた医療等を展開されている甲西リハビリ病院を訪れました。田中院長のご挨拶、本学９期生の薦田先生から概要説明を受けたあと、本学８期生の乾先生や牧浦先生の案内で訓練室や回復期病棟などの施設見学をさせていただきました。多くの患者さんが回復のためリハビリに励んでおられ、それを手助けする多くのスタッフの姿がみられました。皆さんの明るい表情が印象的でした。

その後、里親で本学３期生の佐藤先生が開業の眼科医院を外観見学しました。広い駐車場には所狭しと患者さんの車が並んでおり、お忙しいにも関わらず、参加学生にご挨拶いただくなど先生のひととなりが伺えました。

それから小堀遠州の作と伝えられる蓬莱庭園で有名な大池寺を訪れご住職のお話を伺いながら庭園の見学や本堂の拝観をしました。

昼食後は、里親で本学２期生の渡邊先生はじめ多くの本学卒業生が勤務されている公立甲賀病院の訪問でした。富永院長から歓迎のご挨拶と病院の現状等について説明を伺い、院内見学のあとには、地元の老人クラブや糖尿病患者の会の方など、日頃病院を支えておられる市民の方々にも参加を呼びかけていただき交流会（意見交換会）を設けていただくなど大勢の方々にご協力いただきました。

その後、水口医療センターの外観見学を済ませて宿泊先のホテルレイクヴィラへと移動しました。標高７００メートルというところに建つホテルは、ゴルフ場併設という広大な敷地にありました。
ホテルでは、午後５時１５分から、交流会（第１部）として甲賀保健所長の嶋村先生と本学６期生で水口医療センターにお勤めの浅嶌先生のお二方から地域医療の現状や、医療に関わる大変興味深いお話を伺いました。引き続き交流会（第２部）では、訪問先の病院等からも多くの先生方のご参加をいただき、より一層充実した交流の場を持つことができました。

その後学生は、学生同士交流会としてゲームをするなど、楽しいひと時を過ごし親睦を深めました。

２日目は、あいにくの冷たい雨でしたが、ボランティアガイドの方の案内で、信楽の町を散策しました。丸倍の工房では陶器が焼き上がるまでの工程の説明をうけたり、実演を見せてもらったりしました。また奥田忠左衛門窯では珍しい登り窯も見学することが出来ました。至る所にある大小様々なたぬきやかえるの置き物がみんなを迎えてくれていました。その後、県立陶芸の森へ移動し、陶芸館は展示物入替のため入館できませんでしたが、信楽産業展示館には窯ごとに出来上がった製品の展示がされており、身近なものから、大変高価なものまで見学することが出来ました。

昼食のあとは、研修最後の訪問先国立病院機構紫香楽病院です。
ここでは、山形院長のご挨拶、本学１期生で副院長の鳴戸先生や看護師の方から概要説明を受けた後、５～６人の小グループに分かれて、同病院における医療の主体の一つとされている重症心身障害児（者）医療の施設見学をはじめ、大変貴重な体験をさせていただきました。食事介助など看護師の方の説明を受けながら、慣れない手つきで食べ物を患者さんの口に運ぶ学生の姿が神妙でした。また抱っこしてもらって喜んでいる子供さんの姿がとても印象的でした。あっという間の１時間３０分が過ぎ、信楽を後に大学への帰路につきました。

今回の宿泊研修においても、本当に大勢の方のご協力を得て、大変すばらしく、貴重な経験をすることが出来ました。学生たちも研修を重ねるごとに、新しい発見と新たな想いを抱いていることと思います。

お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。

なお、甲西リハビリ病院ではNHK大津放送局・中日新聞大津市局・びわこ放送の、
公立甲賀病院ではNHK大津放送局の同行取材がありました。

FD研修会･意見交換会を開催しました

2010年2月23日

2月4日(木)クサツエストピア
ホテルにおいて「里親GP」事業の
一環である「FD交流会・意見交換会」を開催しました。

当日は、学生と里親・プチ里親の方々だけではなく、医学科・看護学科の後援会の役員の方にもご出席をいただき３０名余りによる研修・意見交換会となりました。

最初に垰田室長から、「地域『里親』による学生支援、２００９年の取り組み」と題して、プログラムの経過や今後の課題等についての報告があり、研修会が始まりました。
また、永田事業推進責任者からは、「学生教育の現状」というテーマで、滋賀医科大学における学生教育の今昔等について講演を行いました。
その後、出席者の自己紹介などを含め意見交換が行われ、予定の２時間を超える有意義な時間となりました。
参加の学生たちにとっても、日頃メール交換が中心の里親の先生方と直接お話しできるよい機会になりました。
また当日は、NHK（大津放送局）と中日新聞（大津支局）から取材に来られ、研修・意見交換の見学と出席者へのインタビ ューなどをされました。

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

垰田室長の報告の様子

永田事業推進責任者の講演の様子

里親の先生とインタビューを！

出席者から一言（プチ里親徳田さん）

記念撮影

学生支援プログラム意見交換会において事例紹介を行いました

2010年2月19日

２月１日（月）大阪新阪急ホテルにおいて、独立行政法人日本学生支援機構の主催により【平成２１年度「新たな社会的ニ ーズに対応した学生支援プログラム」・「大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）」意見交換会（近畿地区）】が１４０名を超える参加者のもと開催されました。

この意見交換会の目的は、上記のプログラムに選定された大学等の取組内容等について、広く情報提供を行うことで、本学も平成１９年度に選定の「地域『里親』による医学生支援プログラム」の取り組みについて、里親学生支援室長（社会医学講座・衛生学部門准教授）である垰田和史先生がプログラムの立案経緯・滋賀県の医療の現状や宿泊研修の写真などを資料として提示しながら事例紹介を行いました。
続いて神戸大学・聖泉大学・京都光華女子大学短期大学部からも事例紹介があり、その後、活発な意見交換が行われ、盛況のうちに閉会しました。

講演の様子

産業医科大学医学部「学生支援GPフォーラム」で室長が講演

2010年2月19日

１月２９日（金）福岡県北九州市にある産業医科大学において、産業医科大学医学部「学生支援GPフォーラム」が、テーマを『医科大学における学生支援について』として開催されました。

このフォーラムに同大学から依頼があり、里親学生支援室長（社会医学講座・衛生学部門准教授）である垰田和史先生が本学の「地域『里親』による医学生支援プログラム」の取り組みについて、プログラムの立案経緯・滋賀県の医療の現状や宿泊研修の写真などを資料として提示しながら約１時間の講演を行いました。

講演の様子

「健康教育学習会」を開催しました

2009年11月10日

滋賀医科大学では、地域住民の皆さま一人ひとりがいつまでも健康で長生きできるよう、身近な健康管理について知識を深めていただくため『地域「里親」による医学生支援プログラム』（略称「里親」GP）事業の一環として、「健康教育学習会」を10月22日（木）貴生川公民館（甲賀市水口町）・10月29日（木）今津東コミュニティセンター（高島市今津町）の2会場で開催しました。

里親学生支援室長である、本学社会医学講座の垰田和史准教授による『ころばぬ先のつえ　―滋賀の医療とつえの話―　』という身近なテーマでの講演で、滋賀県の医療の現状や医師の実情などについて、調査結果に基づいた分かりやすい内容に、参加者も興味深く聞き入っておられました。講演終了時には、日頃の生活に関連づけて、いくつか質問などもありました。

貴生川公民館にて

今津東コミュニティセンターにて

ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。

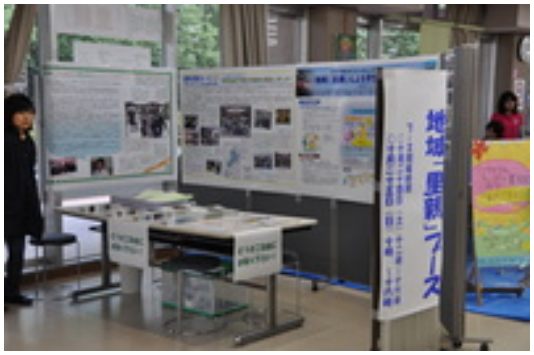
学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2009年11月 2日

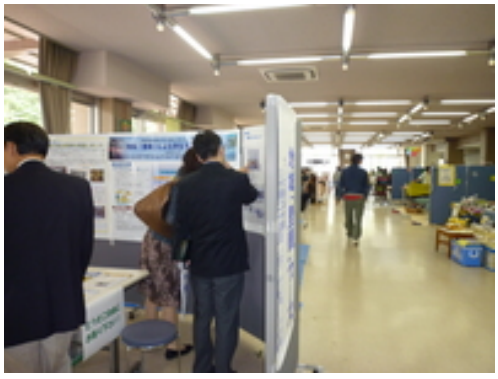
10月24日（土）・25日（日）に滋賀医科大学の学園祭（若鮎祭）が開催され、里親学生支援室もブースを設けました。

福利棟の一角を借りて事業のPRポスターや「里親学生支援室だより」の拡大版、宿泊研修の写真・新聞掲載の記事等を展示し、また「学生支援ニュース」等の発行物については気軽にお持ち帰りいただけるようにするなどして事業のPRに努めました。

学生の保護者の方々をはじめ、一般の方々も足をとめて質問されるなど、多くの方にこの事業に対して少しでも関心を持っていただけたのではないかと思います。



地域「里親」ブースの様子



また、別のエリアでは宿泊研修でお世話になった「東近江市」が研修をきっかけにブースを開設され、医療・福祉事業等の活動状況の報告展示や地元の手づくりパンやジェラートの販売などにより盛んに市のPRをされていました。

ご来場のうえブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

湖東地域で宿泊研修を実施しました

2009年9月28日

「湖東地域の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、９月３日（木）・４日（金）の２日間、近江八幡市と東近江市を中心に夏期の宿泊研修を実施しました。

今回は1年・2年合同で、本年度は新入生の加入も多く、教職員を含め総勢約50名での実施でしたが、天候にも恵まれ大変内容の濃い研修となりました。

１日目は、湖沼の島に人が住む例は世界的にも少なく、琵琶湖最大の島である「沖島」を、唯一人々の足である「船」で訪れました。ボランティアガイドによる説明を聞きながら、島の人々の生活の様子、由緒ある寺院・神社、島の詳しい歴史などがわかる沖島資料館、児童８人・園児２人という沖島小学校・保育園などを見学しました。

また、地元医師会の先生方が交代で週1回往診し島民の健康を守っている沖島診療所（公民館の一部を利用）の内部も見せていただきました。

午後は、ボランティアガイドの案内で、市街の一角から往時の面影を残す新町通りや八幡堀などを通り日牟禮八幡宮まで散策しました。

その後、前身の「近江八幡市民病院」から2006年に移転・新築「近江八幡市立総合医療センター」を訪問し、概要や館内説明のDVDを視聴後、1階フロアーを見学しました。

宿泊場所の「琵琶湖コンファレンスセンター」へ移動後、 午後6時からは交流会（第1部）として、「里親」・「プチ里親」の方々の参加もいただき、地元医師会の副会長で滋賀医科大学2期生の山本克與先生、地元開業で同じく8期生の石塚千恵先生、東近江市地域医療次長の森島章氏のお三方による地域医療の現状や地元で医療にたずさわる先輩としての想い等について貴重なお話を伺いました。

　また、部屋を移動し引き続き開催の交流会（第2部）では、夕食をとりながらご参加いただいた皆さんからお話を伺いつつ　意見交換などしながら和やかな中にも充実した時間を過ごしました。

その後、学生は学生同士交流会として、企画担当の案によるゲーム等で、楽しいひと時を過ごし親睦を深めました。

2日目は、1995年移転・新築されたにも関わらず医師不足のため東近江市における病院再編の議論にあがっている「東近江市立能登川病院」の外観見学の後、「ヴォーリズ記念病院」へと向かいました。
「ヴォーリズ記念病院」では、滋賀医科大学3期生の周防正史院長より概要説明をうけた後、リハビリ病棟等の院内見学（内回り）とヴォーリズ建築のひとつである礼拝堂などの建物見学（外回り）との2班に分かれて見学させていただきました。ここでは、ケアハウスやホスピスなど高齢化社会が避けて通ることのできない状況を目の当たりにし、また時代と地域のニ ーズを踏まえ、地域に根ざした医療の展開に学生たちも真剣な面持ちで説明に聞き入っていました。

午後はここもまた医師不足の問題を抱えている「東近江市立蒲生病院」の外観見学の後、「八日市大凧会館」へと向かいました。

会館に入るとすぐ目に飛び込んでくる100畳敷きの大凧、学生からはあまりの大きさに歓声が。その他所せましと展示された、成人の日の凧や世界の珍しい凧を見て会館を後にしました。

研修の最後は「国立病院機構滋賀病院」でした。この病院の院長も滋賀医科大学3期生である井上修平先生です。

「滋賀病院」では概要を事務長よりお聞きし、同じく5期生の川口晃統括診療部長らの案内により、結核病棟や検査・放射線・手術室等日頃稼働している各部署の他、医師不足のため閉鎖を余議なくされている病棟も見学させていただきました。その後、院長先生他、たくさんの方々のお見送りの中、大学への帰路につきました。

ご協力いただきました皆様のおかげで、大変有意義な2日間をすごすことができました。学生たちにとって、今後の自分たちの役割を考えるとてもいい経験になったと思います。

お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

夏期宿泊研修についての懇談会を開催しました

2009年7月31日

７月６日（月）の昼休み、「『里親』プログラム」に参加している学生（１年・２年）に集まってもらい、CMC（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで、夏期宿泊研修についての懇談会を開催しました。

埴田室長から企画の概要について説明があった後、訪問先などについて意見交換を行いました。

今年度は９月３日（木）?４日（金）の２日間、湖東地域（近江八幡市・東近江市）で研修を行うことになっています。

今後は、各学年3名ずつ選出された企画担当学生の意見等も活かして計画をつめていくことになりました。

その後、７月１７日（金）の昼休みに里親学生支援室で、埴田室長と企画担当学生６名の参加を得て、１日目夜の交流会の内容（参加要請したい地元の方々など）等について意見交換を行いました。

FD研修会を開催しました

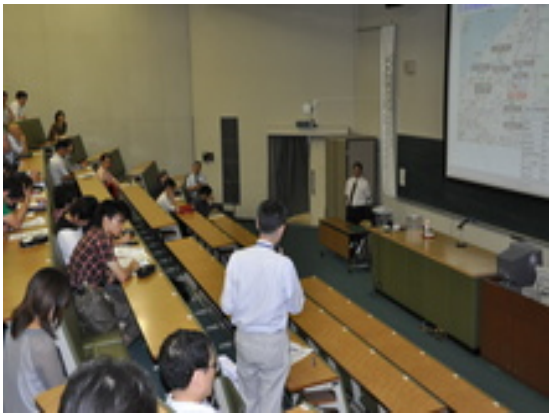
2009年6月30日

本学医学科３期生で、医師不足が地域の問題となっている滋賀県東近江地域の中核病院の院長として、日夜、診療活動や医師不足対策に奮闘されている井上先生を講師としてお招きし、里親学生支援室と地域医療システム学講座との共催で行いました。

参加者は教職員のほか、学生や学外の方々（里親・プチ里親・後援会）など７０名を超え、講演後には活発な意見交換が行われました。

講師の井上先生

研修会風景



意見交換の模様

☆ご多忙の中、多数ご参加いただきまして、ありがとうございました。

湖西地区宿泊研修を実施しました！

2009年3月13日

「湖西地域の医療と文化を学ぶ旅」と題して去る2月20日（金）・21日（土）の2日間、雪の舞う中、高島・朽木方面で宿泊研修を実施いたしました。

１日目は、救命救急センターに始まる急性期医療の提供や、非常災害救護の拠点であり災害基幹センター機能を有する大津赤十字病院を見学後、中町商店街の様子を観ながら近江八景のひとつ「三井の晩鐘」で有名な「三井寺」を拝観しました。

午後は、琵琶湖の西北部一帯を担う総合医療施設として機能している公立高島総合病院を訪れました。青野病院長のご挨拶のあと、滋賀医大の卒業生でもある脳外科医の森田先生から施設についての説明や高島地域の救急搬送における困難な医療の現状等お聞きしました。その後、人口透析設備や病棟など院内施設の見学をさせていただきました。

次に、朽木に向かい特別養護老人ホーム「やまゆりの里」を訪問しました。施設職員の方から入居者のお部屋等施設内をご案内いただき、利用者に優しい快適な施設で過ごされる生活の様子を拝見させていただきました。

朽木診療所の野村先生からは朽木地域の地形的な特色、積雪期の厳しい自然の中での生活の様子、また診療所では医療だけでなく保健や福祉も含まれる地域包括ケアを行っていることなど巡回診療についてもお話しを聞くことができました。そして診療所内を見学させていただいた後、宿泊先の「グリーンパーク思い出の森」へと移動しました。

夕食は高島市役所の清水さんの計らいもあり、郷土料理である「猪鍋・なれ鮨」などを賞味しながら里親の松本先生ご夫妻や朽木診療所の野村先生、高島市健康推進課の職員の方々、保健師や看護師のみなさまとの交流懇談会を開催しました。

--*-

午後からは、滋賀医大の卒業生の松本先生が開業されている「まつもと整形外科」を訪問させていただきました。地元の視点をふまえた医療の在り方や開業の工夫など学生の興味を惹くお話しをしていただき、質問も飛び交い、また医院の機器類に触れることができ、実のある研修を受けることができました。

新旭町では「針江　生水の郷」へ。地元のボランティアガイドによる説明を聞きながら今も各家庭に残る「かばた」を見学したり、湧水の味見をしたり「梅花藻」を観たりと地元の生活や自然に触れることができました。

一同は2日間の大変有意義な研修を終え、大学への帰路につきました。

FD研修会（交流会）を開催しました！

2009年2月 2日

2009/1/23 （金）

FD研修会（交流会）

草津エストピアホテルにて　19:00?21:00

里親の先生方、プチ里親のみなさま、医学科ならびに看護学科後援会役員の方々をお招きし、プログラム参加学生および学内外支援室員との交流会を実施しました。

埜田室長よりプログラムの経過報告のあと、意見交換を行いました。

プログラムについての感想、さまざまな立場から医学部学生に伝えたい思い等、貴重なご意見を頂戴しました。

また、学生にとりましては、普段はメールを通しての交流が主ですが、マッチングしている里親の先生との初対面も実現し、更なる交流が深まりました。

「健康教育学習会」を開催いたしました！

2008年10月20日

滋賀医科大学では、しゃくなげ会と里親学生支援室共催で地域住民のみなさま一人ひとりが健康で長生きできるよう、身近な健康管理について知識を深めていただこうと、10／16に本校臨床講義室にて健康教育学習会を開催いたしました。第一回目はしゃくなげ総会の後に実施し、多くのしゃくなげ会員様にご参加いただきました。

演題　：　「ころばぬ先のつえ−滋賀の医療とつえの話」

講師　：　垰田　和史
滋賀医科大学社会医学講座　准教授
里親学生支援室室長

多数のご参加誠にありがとうございました☆